Dell EMC iDRAC サービス モジュール 3.4 ユーザーズガイド



メモ、注意、警告

() メモ: 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

△ 注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。

▲ 警告:物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2019 Dell Inc. その関連会社。不許複製・禁無断転載.Dell、EMC、およびその他の商標は、Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

2019 - 03

Rev. A00



1 はじめに	7
	7
対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス	7
OpenManage Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの共存の共存	9
ソフトウェア可用性	9
iDRAC サービスモジュールのダウンロード	9
Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス	9
ソフトウェアライセンス契約	10
その他の必要マニュアル	10
2 インストール前のセットアップ	11
インストール要件	11
対応オペレーティングシステム	11
対応プラットフォーム	12
Microsoft Windows オペレーティング システムのサポート プラットフォーム	12
Linux オペレーティングシステム対応プラットフォーム	14
仮想オペレーティングシステム対応プラットフォーム	16
Dell Precision ラックシステムの対応オペレーティングシステム	18
システム要件	
3 iDRAC サービスモジュールのインストール	19
Windows 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール	19
iDRAC Express からの iSM の初期インストール	20
Linux 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール	20
Microsoft Windows オペレーティングシステムへの iDRAC サービスモジュールのインストール	20
サイレントインストール	21
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールコンポーネントの変更	22
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールの修復	23
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール	23
対応 Linux オペレーティング システムへの iDRAC サービス モジュールのインストール	23
Linux オペレーティング システムのプレインストール要件	
Linux インストールの依存性	24
Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール	25
Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール	
VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール	27
vSphere CLIの使用	27
VMware Update Manager を使用して iDRAC サービスモジュールをインストールする	
VMware Update Manager を使用して iDRAC サービスモジュールをアップグレードする	28
Power CLI の使用	29

VMware ESXi の iDRAC サービスモジュールのアップグレード	
VMware ESXi の iDRAC サービスモジュールのアンインストール	30
システム設定ロックダウンモードが有効な場合の iDRAC サービスモジュールのインストール	
iSM インストーラを取得するための iDRAC URI のサポート	
iDRAC FQDN としての idrac.local および drac.local のサポート	31
4 iDRAC サービスモジュールの設定	32
iDRAC Web インタフェースからの iDRAC サービスモジュールの設定の設定	
RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定	32
WSMan からの iDRAC サービスモジュールの設定	33
5 iDRAC サービスモジュール監視機能	34
オペレーティングシステム情報	35
オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション	35
自動システムリカバリ	35
Windows Management Instrumentation プロバイダ	
NVMe PCle SSD デバイスの取り外しの準備	36
リモート iDRAC ハードリセット	
ホスト OS を介した iDRAC アクセス	36
GUI、WS-man、Redfish、リモート RACADM を介した iDRAC へのアクセス	
iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート	
WSMAN のリモートでの有効化	37
iDRAC サービスモジュールの自動アップデート	
FullPowerCycle	
ボックス上の SupportAssist	39
SupportAssist 登録	40
SupportAssist Collection	40
SupportAssist Collectionの設定	41
iSM SupportAssist ディスクの自動ディスパッチ	43
帯域内 SNMP Get 機能の有効化 - Linux	43
帯域内 SNMP Get 機能の有効化 - Windows	44
iDRAC GUI の起動	44
ホスト OS 管理者デスクトップから iDRAC GUI へのシングル サイン オン (SSO)	44
概要	
前提条件	45
Linux オペレーティング システムの制限事項	45
OS-BMC パススルーを介した iSM と iDRAC 間の IPv6 通信	
IPv6 プロトコルでサポートされない機能	46
TLS プロトコルを使用した iSM と iDRAC 間通信のセキュリティ強化	46
6 よくあるお問い合わせ (FAQ)	48
iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、OpenManage Server Administrator をアン1	′ンスト
ールする必要はありますか?	48
システムに iDRAC サービスモジュールがインストールされていることを確認する方法を教えてください。	

システムにインストールされている iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認する方法を教えてください。	48
iDRAC サービスモジュールをインストールするために必要な最低許可レベルは何ですか ?	48
iDRAC サービスモジュールをインストールしようとすると、このサーバーはサポートされていません というエラーメッセージ	
が表示されます。対応サーバーの詳細については、『ユーザーズガイド』を参照してください。どうすればよいですか?	. 49
USBNIC 経由の OS to iDRAC パススルーが正しく設定されていても、iDRAC サービスモジュールは、 OS to iDRAC	
パススルーチャネルを使用して、iDRACと通信できませんというメッセージが OS ログに表示されます。このメッセージ	
が表示されるのはなぜですか?	49
iDRAC サービスモジュールをインストールしようとすると、このオペレーティングシステムがサポートされていないというエラ	
ーメッセージが表示されます。	49
リモート iDRAC ハードリセット機能を使用して iDRAC をリセットしました。 しかし、 IPMI が応答せず、 トラブルシュー	
ティングができません。	50
複製された LifeCycle ログはオペレーティングシステムのどこにありますか?	. 50
Linux オペレーティングシステムでアラートを送信するために iDRAC サービスモジュールで設定されているデフォルトの	
SNMP プロトコルは何ですか ?	50
SMUX がシステムでサポートされていません。アラートを送信するためにはどのプロトコルを設定する必要があるでしょ	
うか?	50
Agent-x プロトコルを使用してデフォルトでアラートを送信するよう設定するには、iDRAC サービスモジュールをどのよ	
うに設定しますか ?	50
Linux のインストール中にインストールする必要がある Linux 依存パッケージまたは実行可能プログラムは何がありま	
すか ?	51
Windows イベントビューアにカスタムフォルダを作成しましたが、LC ログがカスタムフォルダに複製されていません。ここ	
で LC ログを複製するにはどうすればよいですか?	51
iDRAC サービスモジュールのインストール中に、グラフィカルユーザーインタフェースからカスタムインストールオプションを	
選択して、ある機能を無効化したのですが、その機能を他のインタフェースから有効化することができません。この機	
能を再び有効化するにはどうすればよいですか?	51
LDAP 経由の Active Directory ユーザーとしてホスト OS から iDRAC ページにアクセスできません。 ホスト OS から	
iDRAC ページにアクセスを試みていますが、サイトに到達できないという内容のエラーが発生します。この問題を解	
決するにはどうすればよいですか?	51
iDRAC の工場出荷時の設定へのリセット操作(racadm racresetcfg など)を実行すると、ホスト OS から iDRAC	
ページにアクセスできなくなりました。この問題を解決するにはどうすればよいですか?	52
iSM を介して受信した iDRAC SNMP トラップのソース IP アドレスとして 169.254.0.2 が表示されています。この問	
題を解決するにはどうすればよいですか?	52
LOM へ OS から iDRAC へのパススルーを設定し、dcism-sync を実行しようとすると、アップデート操作が失敗しま	
す。どのように対処したらよいですか?	. 52
ホスト OS で Hyper-V が有効になっていると、iSM は iDRAC と通信できません。どうすればよいですか?	. 52
Linux および VMware ESXi オペレーティングシステムでは、RACADM および WSMAN コマンドを使用して、iSM	
の WMIInfo 機能を有効または無効にできます。これは、ホスト OS の iSM 設定に影響しますか?	52
ホスト OS で USBNIC インタフェースの IP アドレスを削除すると、iSM は iDRAC と通信できなくなります。	. 53
Microsoft Windows OS でバッチファイル ISM_Win.BAT を使用して iDRAC 公開論理パーティション SMINST か	
ら iSM をインストールした後、「指定されたファイルが見つかりません」というコンソールメッセージが表示されます。	. 53
iSM の依存パッケージが Ubuntu OS に存在しない場合、OS DUP を使用したインストールは、iSM をインストール	
+ アンパックの状態でインストールします。次のコマンドを使用して、この状態を確認できます。	53

iSM 3.4.0 を RedHat Enterprise Linux などの Linux オペレーティング システムにインストールすると、OS ログに	
[G_IS_SIMPLE_ACTION (simple)' failed: failed to rescan: Failed to parse /usr/share/applications/	
iDRACGUILauncher.desktop file: cannot process file of type application/x-desktop」などのメッセージが表示	
されます。	54
[メニュー] > [アクセサリー]から[iDRAC GUIの起動]のショートカットをクリックすると、RHEL 6.10 または RHEL	
7.6 に空のターミナルが表示されます。	54

7 Linux および Ubuntu インストーラパッケージ	
--------------------------------	--

はじめに

本ガイドは、サポートされるオペレーティングシステムで iDRAC サービスモジュールをインストールする方法についての情報とステップバイステップ手順を説明 します。

Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) サービス モジュールは、デルの第 12 世代以降の PowerEdge サーバーにインストールできる軽 量のオプション ソフトウェア アプリケーションです。 iDRAC サービス モジュールはモニタリング データの追加により、 iDRAC インターフェイス (グラフィカル ユー ザー インターフェイス (GUI)、 RACADM CLI、 Redfish、 Web サービス管理 (WSMAN))を補完します。 サポートされるオペレーティング システムでの機 能の設定は、インストールする機能と環境ごとに固有の統合ニーズに応じて実行できます。

iDRAC サービスモジュールアーキテクチャは IP ソケット通信を使用し、追加のシステム管理データ(OS/ デバイスドライバ)を iDRAC に提供します。また、OS 標準インタフェースを介したシステム管理データへのアクセスを持つ 1 対多コンソールも提供します。

トピッ**ク** :

- 新機能
- 対応機能 オペレーティングシステムマトリックス
- OpenManage Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの共存
- ソフトウェア可用性
- iDRAC サービスモジュールのダウンロード
- Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス
- ソフトウェアライセンス契約
- その他の必要マニュアル

新機能

- ・ OS-BMC パススルーを介した iSM と iDRAC の通信を保護する TLS 保護の有効化。
- ・ ホスト OS 管理者デスクトップから iDRAC GUI へのシングル サイン オン (SSO)。
- 自動ディスパッチ機能用の組み込み SupportAssist の有効化。
- OS-BMC パススルーを介した iSM と iDRAC 間の IPv6 通信を行うためのサポート追加。
- VMware ESXi での SupportAssist OS データコレクションにおける、プライバシー用のフィルター モードでの収集のサポート。
- Redhat Enterprise Linux 7.6 オペレーティング システムのサポート。
- ESXi 6.7 U1 オペレーティング システムのサポート。
- Precision ラック サーバー R7920 での Win10 RS5 クライアント オペレーティング システムのサポート。

対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス

次の機能は、第12世代、第13世代、第14世代の Dell EMC PowerEdge サーバでサポートされます。

表 1. 対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス

機能	世代	オペレーティングシステム		
		Microsoft Windows (HyperV システムを含 む)	Linux	仮想化(VMware ESXi)
OS 情報の共有	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有
LC ログレプリケーション	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有
自動システムリカバリ / ウ ォッチドッグ	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有
Windows Management Instrumentation プロバ イダ	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	無	無
iDRAC を使用した NVMe デバイスの取り外 し準備	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有
SupportAssist Collection	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有
OS およびアプリケーション データ	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	はい (第 14 世代のみ)
リモート iDRAC ハードリ セット	第 13 世代、第 14 世代	有	有	有
ホスト OS を介した iDRAC アクセス	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	無
iDRAC SNMP アラート の帯域内サポート	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有
Redfish クライアントを介 したネットワークインタフェ ース監視のサポート	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有
WSMAN のリモートでの 有効化	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	無	無
FullPowerCycle	第 14 世代	有	有	無
帯域内 SNMP Get	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	無
Live VIB のインストール	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	無	無	有
SupportAssist- Anonymous Collection Report	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	有
iDRAC GUI の起動	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	有	無
IPv6 サポート	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	無	有	無
選択イベントの自動ディ スパッチ	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	有	無	無
選択 PII による SA コレク ション	第 12 世代、第 13 世代、第 14 世代	無	無	有

機能	世代	オペレーティングシステム		
シングルサインオン (SSO)	第 14 世代	有	有	無

OpenManage Server Administrator と iDRAC サービスモ ジュールの共存

1つのシステムに、OpenManage Server Administrator (OMSA)と iDRAC サービスモジュールの両方を共存させることができます。iDRAC サービスモ ジュールのインストール中にモニタ機能を有効にした場合、インストールが完了した後に iDRAC サービスモジュールが OMSA の存在を検知すると、重複 しているモニタ機能一式が無効にされます。 OMSA が停止した場合は、常に iDRAC サービス モジュール機能が有効になります。

(i) メモ: 重複している機能は、AutoSystemRecovery と Lifecycle ログ レプリケーションです。

ソフトウェア可用性

iDRAC サービスモジュールソフトウェアは、次から利用できます。

- [Dell EMC OpenManage Systems Management Tools and Documentation]DVD
- ・ サポートサイト dell.com/support

iDRAC サービスモジュールのダウンロード

iDRAC サービスモジュールソフトウェアは、dell.com/support からダウンロードできます。 サポート サイトで、[すべての製品の参照]> [ソフトウェア] > [エンタープライズ システム管理]> [リモート エンタープライズ システム管理]> [iDRAC サービス モジュール]の順にクリックします。

iSM をダウンロードするには、該当バージョンをクリックして、[ドライバーとダウンロード]をクリックします。

Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス

次のリンクを使用して、必要なドキュメントにアクセスします。

- Dell EMC エンタープライズシステム管理マニュアル www.dell.com/esmmanuals
- Dell EMC OpenManage マニュアル www.dell.com/openmanagemanuals
- Dell EMC リモートエンタープライズシステム管理マニュアル www.dell.com/esmmanuals
- iDRAC および Lifecycle Controller マニュアル www.dell.com/idracmanuals
- Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズシステム管理マニュアル www.dell.com/esmmanuals
- Dell EMC 保守ツールマニュアル www.dell.com/serviceabilitytools
- a www.dell.com/support にアクセスします。
 - b **すべての製品の参照**をクリックします。
 - c **すべての製品** ページで ソフトウェア をクリックして、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - 統計
 - クライアントシステム管理
 - エンタープライズアプリケーション
 - エンタープライズシステム管理
 - 公共機関向けソリューション

- ユーティリティ
- メインフレーム
- 保守ツール
- 仮想化ソリューション
- オペレーティングシステム
- サポート
- d マニュアルを表示するには、該当する製品をクリックして、該当するバージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
 - 検索ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。

ソフトウェアライセンス契約

iDRAC サービスモジュールのオペレーティングシステムの対応バージョンのソフトウェアライセンスは、インストーラに含まれています。 license_agreement.txtファイルをお読みください。メディア内のファイルをインストールまたはコピーすると、license_agreement.txtファイ ルに記載された条件に同意したことになります。

その他の必要マニュアル

Dell.com/support で、次のガイドにアクセスできます。

- 『Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC)ユーザーズガイド』には、iDRACの設定と使用に関する詳細が記載されています。
- 『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』には、RACADM コマンドラインユーティリティの使い方が記載されています。
- 『Dell Update Packages ユーザーズガイド』には、システムアップデート対策の一環としての Dell Update Packages の入手方法と使い方が記載されています。
- 『Dell Event Messages リファレンスガイド』には、システムコンポーネントを監視するファームウェアおよびその他のエージェントによって生成されるイベントとエラーに関する情報が記載されています。
- 『Dell Lifecycle Controller 2 Web Services インタフェースガイド』には、Web services for Management (WS-Man) プロトコルを使用するための 情報と使用例が記述されています。



iDRAC サービスモジュールをインストールする前に、次の条件を確認します。

- 第12世代以降の Dell PowerEdge サーバ。対応プラットフォームのリストについては、「対応プラットフォーム」を参照してください。
- 最小ファームウェア バージョン iDRAC 8 の場合 2.61.60.60、iDRAC 9 の場合 3.21.21.21。
- システム管理者特権。
- オペレーティングシステムのインストール手順をお読みください。
- 該当するリリースノートファイル、および『システムソフトウェアサポートマトリクス』をお読みください。
- インストール要件を読み、ご使用のシステムが最小要件を満たしていることを確認してください。
- iDRAC サービスモジュールアプリケーションをインストールする前にシステムで実行されているすべてのアプリケーションを終了してください。

トピック :

- インストール要件
- 対応オペレーティングシステム
- 対応プラットフォーム
- ・ システム要件

インストール要件

「対応オペレーティングシステム」で、iDRAC サービスモジュールの対応オペレーティングシステムのリストを確認してください。

- () メモ:オペレーティングシステム固有の必要条件がインストール手順として記載されています。
- メモ: iDRAC サービスモジュールは、ユーザーインタフェースを使用してインストールできます。このインストーラはサイレントインストール方式もサポートしています。

対応オペレーティングシステム

iDRAC サービスモジュールのサポートは、次の 64 ビットオペレーティングシステムに対応しています。

- Microsoft Windows Server 2019
- Microsoft Windows Server 2016
- Red Hat Enterprise Linux 6.10
- Red Hat Enterprise Linux 7.6
- SUSE Linux Enterprise Server 15
- VMware vSphere (ESXi) 6.7 U1
- VMware vSphere (ESXi) 6.5 U2
- Ubuntu 18.04.2
- Win10 RS5

対応プラットフォーム

iDRAC サービスモジュール 3.4 は、第 12 世代から第 14 世代の PowerEdge サーバーをサポートします。

Microsoft Windows オペレーティング システムのサポート プラットフォーム

次の表に、Microsoft Windows オペレーティング システム上の iDRAC サービス モジュール 3.4 でサポートされるプラットフォームのリストを示します。

表 2. Microsoft Windows オペレーティング システムのサポート プラットフォーム

Dell システム	Microsoft Windows Server 2016	Microsoft Windows Server 2019		
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
Т140	有	有		
Т340	有	有		
R240	有	有		
R340	有	有		
R740xd2	有	有		
MX740c	有	有		
MX840c	有	有		
R840	有	有		
R940xa	有	有		
R7425	有	有		
R7415	有	有		
R6415	有	有		
C6420	有	有		
FC 640	有	有		
M640	有	有		
M640-VRTX	有	有		
R440	有	有		
R540	有	有		
R640	有	有		
R740	有	有		
R740 XD	有	有		
R940	有	有		
T440	有	有		
C4140	有	無		
第 13 世代サーバ				

Dell システム	Microsoft Windows Server 2016	Microsoft Windows Server 2019
C4130	有	有
C6320	有	有
FC 430	有	有
FC 630	有	有
FC 830	有	有
M630 VRTX	有	有
M630	有	有
M830	有	有
R230	有	有
R330	有	有
R430	有	有
R530	有	有
R630	有	有
R730	有	有
R730 XD	有	有
R830	有	有
R930	有	有
Т130	有	有
Т330	有	有
T430	有	有
Т630	有	有
第 12 世代サーバ		
FM120	有	有
M420	有	有
M520	有	有
M620	有	有
M820	有	有
R220	有	有
R320	有	有
R420	有	有
R520	有	有
R620	有	有
R720	有	有
R720 XD	有	有
R820	有	有
R920	有	有

Dell システム	Microsoft Windows Server 2016	Microsoft Windows Server 2019	
Т320	有	有	
T420	有	有	
Т620	有	有	

Linux オペレーティングシステム対応プラットフォーム

次の表は、Linux オペレーティングシステム上の iDRAC サービスモジュール 3.4 がサポートするプラットフォームのリストです。

表 3. Linux オペレーティングシステム対応プラットフォーム

Dell システム	SLES 15	Ubuntu 18.04.2	RHEL 7.6	RHEL 6.10
第 14 世代サーバ			•	
T140	有	有	有	有
T340	有	有	有	有
R240	有	有	有	有
R340	有	有	有	有
R740xd2	有	有	有	有
MX740c		有	有	無
MX840c		有	有	無
R840	有		有	無
R940xa	有	有	有	無
R7425	有	無	無	有
R7415	有	無	無	有
R6415	有	無	無	有
C6420	有	有	有	有
FC640	有	有	有	有
FD332	有	有	有	有
M640	有	有	有	有
M640-VRTX	有	有	有	有
R440	有	有	有	有
R540	有	有	有	有
R640	有	有	有	有
R740	有	有	有	有
R740xd	有	有	有	有
R940	有	有	有	有
T440	有	有	有	有
C4140	有	有	有	有
T640			有	有

Dell システム	SLES 15	Ubuntu 18.04.2	RHEL 7.6	RHEL 6.10
第 13 世代サーバ	•	•		
C4130	有	無	有	有
C6320	有	無	有	有
FC 430	有	無	有	有
FC 630	有	無	有	有
FC 830	有	無	有	有
M630 VRTX	有	無	有	有
M630	有	無	有	有
M830	有	無	有	有
R230	有	無	有	有
R330	有	無	有	有
R430	有	無	有	有
R530	有	無	有	有
R630	有	無	有	有
R730	有	無	有	有
R730 XD	有	無	有	有
R830	有	無	有	有
R930	有	無	有	有
T130	有	無	有	有
Т330	有	無	有	有
T430	有	無	有	有
Т630	有	無	有	有
第 12 世代サーバ				
FM120	有	無	有	有
M420	有	無	有	有
M520	有	無	有	有
M620	有	無	有	有
M820	有	無	有	有
R220	有	無	有	有
R320	有	無	有	有
R420	有	無	有	有
R520	有	無	有	有
R620	有	無	有	有
R720	有	無	有	有
R720 XD	有	無	有	有
R820	有	無	有	有

Dell システム	SLES 15	Ubuntu 18.04.2	RHEL 7.6	RHEL 6.10	
R920	有	無	有	有	
Т320	有	無	有	有	
T420	有	無	有	有	
Т620	有	無	有	有	

仮想オペレーティングシステム対応プラットフォーム

次の表は、仮想オペレーティング システムで、iDRAC サービス モジュール 3.4 がサポートするプラットフォームのリストです。

表 4. 仮想オペレーティングシステム対応プラットフォーム

Dell システム	VMware			
	vSphere 6.5 U2 vSphere 6.7 U1			
第 14 世代サーバ				
T140	有	有		
Т340	有	有		
R240	有	有		
R340	有	有		
R740xd2	有	有		
MX740c	有	有		
MX840c	有	有		
R840	有	有		
R940xa	有	有		
R7425	有	有		
R7415	有	有		
R6415	有	有		
C6420	有	有		
FC640-VRTX	有	有		
FC640	有	有		
FD332	有	有		
M640	有	有		
M640-VRTX	有	有		
R440	有	有		
R540	有	有		
R640	有	有		
R740	有	有		
R740xd	有	有		
R940	有	有		

Dell システム	VMware					
	vSphere 6.5 U2	vSphere 6.7 U1				
T440	有	有				
第 13 世代サーバ						
C4130	無	有				
C6320	無	 有				
FC 430	有	 有				
FC 630	有	 有				
FC 830	有	 有				
M630 VRTX	有					
M630	有	 有				
M830	有	 有				
R230	有	 有				
R330	有	 有				
R430	有	 有				
R530	有	 有				
R630	有	 有				
R730	有	 有				
R730 XD	有	 有				
R830	有	 有				
R930	有	 有				
Т130	有	 有				
Т330	有	有				
T430	有	有				
Т630	有	有				
第 12 世代サーバ						
FM120	有	無				
M420	有					
M520	有					
M620	有					
M820	有	無				
R220	有					
R320	有	無				
R420	有	無				
R520	有	無				
R620	有	無				
R720	有	無				

Dell システム	VMware		
	vSphere 6.5 U2	vSphere 6.7 U1	
R720 XD	有	無	
R820	有	無	
R920	有	無	
Т320	有	無	
T420	有	無	
Т620	有	無	

Dell Precision ラックシステムの対応オペレーティングシステム

次の表に、Dell Precision ラックシステムのオペレーティングシステムのリストを示します。

表 5. Dell Precision ラックシステムの対応オペレーティングシステム

Dell システム	Microsoft Windows 10 RS5		
R7920	有		

システム要件

- 対応オペレーティングシステムのいずれか1つ。対応オペレーティングシステムの詳細については、「対応オペレーティングシステム」を参照してください。
- 最低 2 GB の RAM。
- 最低 512 MB のハードドライブ空き容量。
- システム管理者権限。
- USB 経由でネットワークデバイスを検出するための Remote Network Driver Interface Specification (RNDIS)仕様への対応。

iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュールは、次のどのオペレーティングシステムにもインストールできます。

- Microsoft Windows オペレーティング システム
- 対応 Linux オペレーティング システム
- VMware ESXi

トピック :

- Windows 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール
- iDRAC Express からの iSM の初期インストール
- Linux 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール
- Microsoft Windows オペレーティングシステムへの iDRAC サービスモジュールのインストール
- 対応 Linux オペレーティング システムへの iDRAC サービス モジュールのインストール
- VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール
- システム設定ロックダウンモードが有効な場合の iDRAC サービスモジュールのインストール

Windows 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの 初期インストール

iDRAC インタフェースから iSM をインストールできます。ホスト OS 付属の iDRAC インストーラパッケージャを使用して、シングルクリックインストールで iSM をインストールしてください。このインストーラパッケージを使用して iSM をインストールする場合は、デルサポートや OM DVD に移動しないでください。この 機能により、iSM の互換バージョンが、サポートされている iDRAC ファームウェアにインストールされていることが確認できます。 iDRAC から iSM を初期インストールする手順:

- 1 iDRAC サービスモジュールのセットアップ ページにアクセスします。サービスモジュールのインストール ボタンをクリックします。 サービスモジュールインストーラ ダイアログボックスが表示されます。
- 2 システムに適切なスクリプトを選択し、仮想コンソールの起動をクリックします。
- 3 セキュリティの警告 ダイアログボックスで、続行 をクリックします。 ダイアログボックスには、アプリケーションステータスの確認を表示できます。
- 4 **セキュリティの警告**ダイアログボックスで、ライセンス契約の条件に同意し、実行をクリックします。
- 5 資格情報を使用して、リモート / ローカルシステム (ホスト OS) にログインします。 インストーラファイルはローカルシステムにあります。

メモ: インストーラは、ホスト OS で 30 分間使用できます。30 分以内にインストールを開始しないと、サービスモジュールのインスト ールを再開する必要があります。

- 6 ボリューム (SMINST)をダブルクリックして、ISM_Win.batスクリプトを実行します。
- **iDRAC サービスモジュール** インストーラウィザードが表示されます。
- 7 一般的なインストール手順を続行して、インストールを完了します。

① メモ: インストールが完了したら、インストーラファイルはローカル / ホスト OS から削除されます。

メモ: *iDRAC* サービスモジュールのセットアップページで、インストールが完了すると、サービスモジュールのインストールボタンが無効になります。サービス モジュールのステータスは実行中として表示されます。

iDRAC Express からの iSM の初期インストール

- 1 **iDRAC サービスモジュール** セットアップページから、**サービスモジュールのインストール** をクリックします。 サービスモジュールインストーラが木スト OS に公開され、ジョブが iDRAC で作成されています。
- 2 Microsoft Windows OS の場合、サーバに RDP するか、物理サーバコンソールに移動します。 Linux OS の場合、ホスト IP に SSH するか、物理 サーバコンソールに移動します。
- 3 SMINST というラベルの付いたデバイス一覧で、マウントされたボリュームを見つけ、適切なスクリプトをクリックしてインストールを開始します。 Microsoft Windows OS の場合は、ISM-Win.bat スクリプトを実行します。Linux OS の場合、シェルから ISM-Lx.sh スクリプトを実行します。
- 4 インストールが完了すると、iDRAC にサービスモジュールがインストール済みと表示され、最後にインストールされた日付が表示されます。

① メモ: インストーラは、ホスト OS で 30 分間使用できます。30 分以内にインストールを開始しないと、サービスモジュールのインスト ールを再開する必要があります。

Linux 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初 期インストール

Linux オペレーティングシステム用の iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストールは次のように行います。

- 1 マウントされたボリューム全体に対して実行します (SMINST)。
- 2 sh ISM_Lx.sh コマンドを実行します。
- 3 fdisk -1を使用して Ubuntu で公開されているドライブを見つけ、ディレクトリにマウントします。
- 4 bash ISM_Lx.sh を使用してコマンドを実行します。

Microsoft Windows オペレーティングシステムへの iDRAC サービスモジュールのインストール

サポートされているオペレーティングシステム向けの iDRAC サービスモジュールインストーラは、『Systems Management Tools and Documentation』 DVD に収録されています。また、**dell.com/support/home** から iDRAC サービスモジュールインストーラをダウンロードすることもできます。 適切なコマンドラインスイッチを使用して、手動または自動インストールのいずれかの操作を実行することができます。iDRAC サービスモジュールは、 OpenManage Essentials (OME) などのコンソールを使用した **プッシュ** メカニズムを使ってインストールできます。

(〕 メモ: 次の手順は、オペレーティング システム環境での PowerShell モジュール パスが見つからない場合にのみ実行してください。

- SYSMGMTiSMWindows を参照して、iDRACSvcMod.msiを実行します。
 iDRAC サービスモジュール InstallShield ウィザード が表示されます。
- 次へをクリックします。
 ライセンス契約 が表示されます。
- 3 ソフトウェアライセンス契約を読んで、ライセンス契約の条件に同意しますを選択してから、次へをクリックします。
- 4 次のオプションから セットアップタイプ を選択し、次へ をクリックします。
 - 標準 すべてのプログラム機能がインストールされます (必要なディスク容量は最大)。
 - カスタム インストールするプログラム機能と場所を選択することによって、インストールをカスタマイズします(上級ユーザー推奨)。
 利用できるオプションは次のとおりです。
 - オペレーティングシステム情報
 - 自動システムリカバリ

- Lifecycle ログレプリケーション
- Windows Management Instrumentation (WMI) プロバイダ
- Windows リモート管理
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- iDRAC ハードリセット
- Support Assist
- iDRAC GUI の起動

◎ メモ: 次の手順は、セットアップタイプ ウィンドウで カスタム オプションを選択した場合のみに該当します。

(i) メモ: デフォルトでは、帯域内 SNMP トラップ 機能は有効になっていません。

a インストールするプログラムの機能を選択して、次へをクリックします。

Lifecycle Controller ログレプリケーション ウィンドウが表示されます。

b LC ログを複製する場所を指定します。デフォルトでは、標準(Windows ログ / システム)オプションが選択されており、LC ログは イベント ビューア の Windows ログ フォルダにある システム グループ内に複製されます。次へ をクリックします。

- c 認証モードを選択して WSMAN をリモートで有効化し、認証証明書が見つからない場合は自己署名証明書をインストールします。 WINRM のポート番号を入力して通信を確立します。デフォルトのポート番号は 5986 です。
- 5 ホスト OS 機能を介した iDRAC アクセスで使用する一意のポート番号(1024 ~ 65535)を入力します。入力しない場合、ポート番号 1266か、 以前に設定されたポート (ある場合) がデフォルトで割り当てられます。

プログラムのインストール準備完了 が表示されます。

- インストールをクリックして、インストールを続行します。
 戻るをクリックしてプリファランスを変更することもできます。

これで iDRAC サービスモジュールが正常にインストールされました。

- 7 終了をクリックします。
 - メモ: Microsoft Windows 2016 オペレーティングシステムでは、iDRAC USB NIC デバイスの説明は、「リモート NDIS 対応デバイス」として表示されます。ユーザーのアクションは必要ありません。

サイレントインストール

iDRAC サービスモジュールは、インタラクティブなコンソールを使用せずにバックグラウンドのサイレントインストールでインストールすることができます。

- サイレントインストールを使用して iDRAC サービスモジュールをインストールするには、コマンドプロンプトに msiexec /i iDRACSvcMod.msi /qnと入力します。
- インストールログを生成するには、を入力します。msiexec /i iDRACSvcMod.msi /L*V <logname with the path>
- LC ログを既存のグループ、またはカスタムフォルダに複製するには、を入力します。msiexec /i iDRACSvcMod.msi CP_LCLOG_VIEW= "<existing group name or custom folder name>"
- サイレントインストールを使用してホスト OS の iDRAC 機能を経由して iDRAC アクセスをインストールするには、を入力します。msiexec /i <location of the installer file>/iDRACSvcMod.msi ADDLOCAL=IBIA /qn
- WSMANをインストールするには、msiexec.exe /i iDRACSvcMod.msi ADDLOCAL="WSMAN_Enablement" CP_SELF_SIGN_CERT="2" CP_WSMAN_PORT="1234" CP_CERTIFICATE="1" CP_NEGOTIATE="1" /qnを入力します。

サポートされている言語でユーザーインタフェースを表示するには、msiexec /i iDRACSvcMod.msi TRANSFORMS= <locale number>.mst を入力します。ここでのロケール番号は次のとおりです。

表 6. サイレントインストール

•

ロケール番号	言語
1031	ドイツ語
1033	英語 (米国)
1034	スペイン語
1036	フランス語
1041	日本語
2052	簡体字中国語

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービス モジュールコンポーネントの変更

iDRAC サービスモジュールコンポーネントを変更するには、次の操作を実行します。

- SYSMGMT > iSM > Windows と参照して、iDRACSvcMod.msiを実行します。
 iDRAC サービスモジュール InstallShield ウイザード が表示されます。
- 2 次へをクリックします。
- 3 修正を選択します。
- 4 必要に応じて機能を有効化または無効化し、次へをクリックします。
 - Lifecycle Controller ログレプリケーション ウィンドウが表示されます。
- 5 LC ログを複製する必要がある場所を指定します。デフォルトでは標準(Windows ログ / システム) オプションが選択されており、LC ログはイベ ントビューアの Windows ログ フォルダにある システム グループ内に複製されます。次へ をクリックします。
 - ① メモ: Lifecycle Controller ログレプリケーション ウィンドウで カスタム オプションを選択することによって アプリケーションとサービス ログフォルダ内にカスタムグループを作成することもできます。
 - ① メモ: 次のような状況では、システムを再起動する必要が生じる場合があります。
 - 標準(Windows ログ / システム) オプションと カスタム オプションを切り替えた場合。
 - ひとつのカスタムフォルダから別のフォルダに切り替えた場合。

インストールの準備完了 画面が表示されます。

- 6 Host OS 機能を介した iDRAC アクセスによって使用される一意のポート番号を入力します。
 - ① メモ: 1024 ~ 65535 の範囲内でポート番号を入力してください。

() メモ:入力しない場合、ポート番号 1266か、以前に設定されたポート(ある場合)がデフォルトで割り当てられます。

7 処理を続行するには インストール をクリックします。

戻るをクリックしてプリファランスを変更することもできます。

これで iDRAC サービスモジュールが正常に変更されました。

8 終了をクリックします。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービス モジュールの修復

故障している、または機能しない iDRAC サービスモジュールコンポーネントを修復する場合は、次の手順を実行します。

- SYSMGMT > iSM > Windows と参照して、iDRACSvcMod.msiを実行します。
 iDRAC サービスモジュール InstallShield ウィザード が表示されます。
- 2 次へをクリックします。
- 3 修復を選択し、次へをクリックします。 インストールの準備完了が表示されます。
- 処理を続行するには 修復 をクリックします。
 環境設定を変更するには、 戻る をクリックします。

これで iDRAC サービスモジュールコンポーネントが正常に修復されました。

5 終了をクリックします。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービス モジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、次の2種類の方法でアンインストールできます。

- 製品 ID を使用した無人アンインストール
- 追加 / 削除機能を使用したアンインストール

製品 ID を使用した無人アンインストール

製品 ID を使用して iDRAC サービスモジュールをアンインストールするには、msiexec /x {BE762CE4-B8D4-4BFC-BA12-16360808DCF3} /qn と入力します。

追加 / 削除機能を使用したアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、コントロールパネルから **追加** または **削除** オプションを使用してアンインストールできます。 **スタート > コントロールパネル >** プログラムと機能 の順にクリックします。

(i) メモ: iDRACSvcMod.msi を実行し、アンインストールを選択してアンインストールすることもできます。

() メモ: Windows イベント ビューアの Windows ログ フォルダにある Application グループで、iDRAC サービスモジュールログを表示できます。

対応 Linux オペレーティング システムへの iDRAC サービス モジュールのインストール

iDRAC サービスモジュール全体は1つの Red Hat Package Manager(RPM)にパッケージ化されています。パッケージはシェルスクリプトとともに提供さ れ、インストール、アンインストール、または使用可能な機能の有効/無効を切り替えることができます。 Linux のインストーラは単一 rpm インストールであるため、細かいインストールサポートはありません。機能の有効/ 無効の切り替えは、スクリプト形式の インストールでのみ可能です。

- () メモ: インストーラは、iDRAC サービスモジュール対応の 64 ビットバージョンの Linux オペレーティングシステムで使用できます。
- ・ メモ: Yellowdog Updater Modified (YUM)、VMware Update Manager (VUM)、Citrix XenServer supplemental pack などのリポジト リー ベースのインストールでは、デフォルトですべての機能は有効になりません。
- () メモ: CentOS では、SupportAssist Collection の OS ログ収集機能はサポートされません。

Linux オペレーティング システムのプレインストール要件

対応 Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムに iDRAC サービスモジュールをインストールするには、setup.sh を実行します。

次のような基本的な機能要件を満たしていることを確認します。

- OS から iDRAC へのパススルーは、iDRAC サービス モジュールのインストール後に自動的に有効になります。
- IPv 4 ネットワークスタックがホストオペレーティングシステムで有効になっている。
- USB サブシステムが有効になっている。
- udev が有効になっている。iDRAC サービスモジュールを自動で起動するために必要です。

iDRAC の詳細については、dell.com/support/home で最新の『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』を参照してください。

Linux インストールの依存性

次は、インストールを完了するためにインストールする必要がある依存パッケージ / 実行可能ファイルのリストです。

表 7. Linux インストールの依存性

実行可能コマンド	パッケージ名	
/sys	fileSystem	
grep	grep	
cut, cat, echo, pwd,	coreutils	
lsusb	usbutils	
find	findutils	
シェルスクリプトコマンド	bash	
ifconfig	net-tools	
ping	Iputils	
chkconfig	RedHat Enterprise Linux	
	• chkconfig	
	SUSE Linux Enterprise Server	
	• aaa_base	
install_initd	RedHat Enterprise Linux	
	redhat-lsb-core	

実行可能コマンド	パッケージ名	
	SUSE Linux Enterprise Server	
	• insserv	
Systemctl	systemd	
curl	libcurl	
openssl	libssl	

Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのイン ストール

- 1 インストールできる機能が画面に表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。
 - [1] ウォッチドッグ Instrumentation Service
 - [2] Lifecycle ログ情報
 - [3] オペレーティング システム情報
 - [4] ホスト OS を介した iDRAC アクセス。
 - [a] GUI、WS-MAN、Redfish、リモート RACADM を介したアクセス
 - [b] 帯域内 SNMP トラップ
 - [c] SNMP Get を介したアクセス
 - [5] iDRAC SSO ランチャー
 - [a] 読み取り専用
 - [b]管理者
 - [6] iDRAC ハードリセット
 - [7] SupportAssist
 - [8] フル パワー サイクル
 - [9] すべての機能
- 2 必要な機能をインストールするには、それぞれの機能の番号を入力します。

() メモ: コンマでインストールする機能の番号を区切ってください。

- ① メモ: サブ機能をインストールするには、4.a、4.b、または 4.c を入力します。
- 3 選択した機能をインストールするには「i」と入力します。インストールを続行しない場合は、qと入力して終了します。
- () メモ:別の機能のインストール後も、同様に設定を変更できます。
- メモ: iDRAC サービスモジュールが RedHat Enterprise Linux 7 または SUSE Linux Enterprise 12 オペレーティングシステムにインストールされているかどうかをチェックするには、init.dコマンドの代わりに systemctl status dcismeng.service コマンドを使用します。
- メモ:ホスト OS を介した iDRAC アクセス機能をインストールした場合、1024 ~ 65535 の範囲内で固有のポート番号を指定する必要があります。入力しない場合、ポート番号 1266 か、以前に設定されたポート(ある場合)がデフォルトで割り当てられます。
- メモ: OpenManage Server Administrator (OMSA) がすでに 1311 にインストールされている場合、同じポートを iDRAC サービスモジュール に使用できません。

 ジモ: iSM 3.4.0 を Linux オペレーティング システムにインストールすると、「failed to rescan: Failed to parse /usr/share/applications/ iDRACGUILauncher.desktop file: cannot process file of type application/x-desktop」などの gnome 警告が表示されます。

サイレントインストール

iDRAC サービスモジュールは、ユーザーコンソールなしでもバックグラウンドでサイレントにインストールできます。これは、パラメータと setup.sh を使用して実行できます。

setup.shを使用するために渡すことができるパラメータは、次の通りです。

表 8. サイレントインストール

パラメータ	説明
-h	ヘルプ : ヘルプを表示します
-i	インストール : 選択した機能をインストールして有効にします
-X	エクスプレス:すべての機能をインストールして有効にします
-d	削除 : iDRAC サービスモジュールコンポーネントをアンインストールします
-W	自動システムリカバリ:自動システムリカバリ計装サービスを有効にします
-1	LC ログ: Lifecycle ログレプリケーションを有効にします
-0	OS 情報 : オペレーティングシステムの情報を有効にします
-a	自動開始 : コンポーネントのインストール後にインストールされたサービスを 開始します
-0	ホスト OS を介した iDRAC アクセス:iDRAC アクセス GUI、WS-man、 Redfish、Remote Racadm を有効にします
-S	帯域内 SNMP トラップを有効にします
-g	SNMP Get を介したアクセスを有効にします
-Sr	iDRAC SSO ログインを読み取り専用ユーザーとして有効にします
-Sa	iDRAC SSO ログインを管理者として有効にします

() メモ: Linux オペレーティングシステムでは、サイレントオプションを使用して操作を変更する機能は、Linux の Web パックから有効化し (setup.sh を使用)、以前、有効にされていた機能の状態が操作の変更中に新しい機能によって上書きされます。

Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアン インストール

iDRAC サービスモジュールは、次の2種類の方法でアンインストールできます。

- アンインストールスクリプトを使用する
- RPM コマンドを使用する

アンインストールスクリプトを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストー ル

iDRAC サービスモジュールのアンインストールに使用するスクリプトは dcism-setup.sh です。シェルスクリプトを実行し、dを選択して iDRAC サービ スモジュールをアンインストールします。

RPM コマンドを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、RPM コマンド rpm-e dcismをコマンドラインに入力するとアンインストールできます。

VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストー ル

一部のシステムでは、出荷時に VMware ESXi がインストールされています。該当するシステムのリストについては、*dell.com/support* で最新の**システム** ソフトウェアサポートマトリックスを参照してください。

iDRAC サービスモジュールは、VMware ESXi オペレーティングシステムを実行しているシステムでのインストール用の .zip ファイルとして提供されます。.zip ファイルは命名規則 **ISM-Dell-Web-3.4.0-<bldno>.VIB-<バージョン>i-Live.zip** に従っています。ここで、<バージョン>は対応 ESXi バージョンです。

対応 ESXi バージョンの zip ファイルは次のとおりです。

- ESXiの場合-ISM-Dell-Web-3.4.0-<bldno>.VIB-ESX6i-Live.zip
- ① メモ: iDRAC サービスモジュールの機能設定は、強制的 / やむを得ない再起動後には保持されません。設定ファイルのバックアップは、60 分 ごとに定期的に実行されるスクリプト /sbin/auto-backup.sh 経由の ESXi ハイパーバイザーによって作成されます。設定を保持する場合は、 システムを再起動する前に backup.sh スクリプトを手動で実行します。

① メモ: iDRAC サービスモジュール Live VIB パッケージをインストールまたはアンインストールした後に、ホスト OS の再起動は必要ありません。

http://vmwaredepot.dell.com/DEL/ から VMware vSphere コマンドラインインタフェース (vSphere CLI)をダウンロードして、Microsoft Windows または Linux システムにインストールします。

vSphere CLI の使用

vSphere CLI を使用して VMware ESXi に iDRAC サービスモジュールのソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 ISM-Dell-Web-3.4.0-<bldno>.VIB-<version>i-Live.zip ファイルをシステムのディレクトリーにコピーして解凍します。
- 2 ESXi ホスト上のすべてのゲストオペレーティングシステムをシャットダウンし、ESXi ホストをメンテナンスモードに設定します。
- 3 vSphere CLI を Windows で使用している場合は、vSphere CLI ユーティリティをインストールしたディレクトリに移動します。 vSphere CLI を Linux で使用している場合は、どのディレクトリからでもコマンドを実行できます。

4 次のコマンドを実行します。

VMware ESXi 6.7 の場合:esxcli --server <IP Address of ESXi 6.7 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>.

VMware ESXi 6.5 の場合:esxcli --server <IP Address of ESXi 6.5 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>.

(i) メモ: vSphere CLI を Linux で使用している場合、拡張子 .pl は必要ありません。

5 プロンプトが表示されたら、ESXiホストのルートユーザー名とパスワードを入力します。

VMware Update Manager を使用して iDRAC サービスモジュールを インストールする

iDRAC サービスモジュールをインストールするには、VMware Update Manager (VUM)を使用します。

- 1 対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムに VMware vSphere 6.5 以降のバージョン(vCenter サーバ、vSphere クライアント、VMware vSphere Update Manager) をインストールします。
- 2 デスクトップで、VMware vSphere クライアント をダブルクリックして、vCenter サーバーにログインします。
- 3 vSphere クライアントホスト を右クリックして、新規データセンター をクリックします。
- 4 新規データセンターを右クリックして、ホストの追加をクリックします。画面の指示に従って ESXi サーバの情報を入力します。
- 5 手順4で追加された ESXi ホスト を右クリックして、メンテナンスモード をクリックします。
- 6 プラグインからプラグインの管理 VMware Update Manager のダウンロードを選択します。指示に従って、VUM クライアントをインストールします。
- 7 ESXi ホスト を選択します。Update Manager > 管理者ビュー > パッチリポジトリ > パッチのインポート の順にクリックして、画面の表示に従って パッチのアップロードを完了します。 オフラインバンドルが表示されます。
- 8 ベースラインおよびグループをクリックします。
- 9 ベースラインタブから作成 タブをクリックし、ベースライン名を指定してベースラインタイプとして ホスト拡張 を選択します。 指示に従って残りを完了します。
- 10 管理者ビューをクリックします。
- 11 ベースラインへの追加(アップロードされたパッチ名に対して)をクリックして、手順8で作成したベースライン名を選択します。
- 12 コンプライアンスビュー をクリックします。 Update Manager タブを選択します。 添付 をクリックして手順 8 で作成した 拡張ベースライン を選択し、 指示に従います。
- 13 スキャンをクリックして、パッチおよび拡張を選択し(デフォルトで選択されない場合)、スキャンをクリックします。
- 14 ステージをクリックし、作成したホスト拡張を選択し、指示に従います。
- 15 ステージングが完了したら**修正**をクリックして、指示に従います。 iDRAC サービスモジュールのインストールが完了しました。
 - ① メモ: VMware Update Manager についての詳細は、VMware の公式ウェブサイトを参照してください。
 - ① メモ: iDRAC サービスモジュール を VUM リポジトリ https://vmwaredepot.dell.com/ からインストールすることができます。

VMware Update Manager を使用して iDRAC サービスモジュールを アップグレードする

iDRAC サービスモジュールをアップグレードするには、VMware Update Manager (VUM)を使用します。

- 1 対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムに VMware vSphere 6.5 以降のバージョン(vCenter サーバ、vSphere クライアント、VMware vSphere Update Manager) をインストールします。
- 2 デスクトップで、VMware vSphere クライアント をダブルクリックして、vCenter サーバーにログインします。
- 3 vSphere クライアントホスト を右クリックして、新規データセンター をクリックします。
- 4 新規データセンターを右クリックして、ホストの追加をクリックします。画面の指示に従って ESXi サーバの情報を入力します。
- 5 手順4 で追加された ESXi ホスト を右クリックして、メンテナンスモード をクリックします。
- 6 プラグイン から プラグインの管理 > VMware Update Manager のダウンロード を選択します。指示に従って、VUM クライアントをインストール します。

- 7 ESXi ホストを選択します。Update Manager > 管理者ビュー > パッチリポジトリ > パッチのインポート の順にクリックして、画面の表示に従ってパッチのアップロードを完了します。 オフラインバンドルが表示されます。
- 8 ベースラインおよびグループ をクリックします。
- 9 ベースラインタブから 作成をクリックし、ベースライン名を指定してベースラインタイプとしてホスト拡張を選択します。

① メモ: 最新の iDRAC サービスモジュールのバージョンを選択して、ベースラインを作成します。

指示に従って残りを完了します。

- 10 **管理者ビュー** をクリックします。
- 11 ベースラインへの追加 (アップロードされたパッチ名に対して)をクリックして、手順8で作成したベースライン名を選択します。
- 12 コンプライアンスビュー をクリックします。 Update Manager タブを選択します。 添付 をクリックして手順 8 で作成した 拡張ベースライン を選択し、 指示に従います。
- 13 スキャンをクリックして、パッチおよび拡張を選択し(デフォルトで選択されない場合)、スキャンをクリックします。
- 14 ステージをクリックし、作成したホスト拡張を選択し、指示に従います。
- 15 ステージングが完了したら **修正** をクリックして、指示に従います。 iDRAC サービスモジュールのアップグレードが完了しました。
 - ① メモ: VMware Update Manager を使用して iSM をアップグレードしている場合、ホスト OS が再起動されます。
 - ① メモ: VMware Update Manager の詳細については、VMware の公式ウェブサイトを参照してください。
 - メモ: iDRAC サービスモジュールは、VMware Update Manager リポジトリ https://vmwaredepot.dell.com/ からアップグレードすることができます。

Power CLI の使用

Power CLIを使用して、iDRAC サービスモジュールをインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムに ESXi の対応 PowerCLI をインストールします。
- 2 ISM-Dell-Web-3.4.0-<bldno>.VIB-<version>i-Live.zipファイルをESXiホストにコピーします。
- 3 bin ディレクトリに移動します。
- 4 Connect-VIServerを実行して、サーバおよび資格情報を提供します。
- 5 ESXi 6.5 U2、ESXi 6.7 の対応 vSphere CLI を使用して ESXi ホストにログオンし、データストアを作成します。
- 6 ISM-Dell-Web-3.4.0-<ビルド番号>.VIB-<バージョン>Iフォルダーを、ESXi 6.5 U2、ESXi 6.7 ホストの/vmfs/volumes/<データストア名>ディ レクトリーに作成します。
- 7 ESXi 6.5 U2 ホストの ESXi zip ファイルを/vmfs/volumes/<データストア名>ISM-Dell-Web-3.4.0-<ビルド番号>.VIB-<バージョン>I ディレクト リーにコピーします。
- 8 上で指定したディレクトリで zip ファイルを解凍します。
- 9 Power CLI で次のコマンドを実行します。

ESXi6.7の場合:Install-VMHostPatch -VMHost <VMHost I.P address> - HostPath /vmfs/volumes/ <datastore_name>name>/ISM-Dell-Web-3.4.0-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-dell-dciSMesxi_3.4.0.ESXi670-0000-metadata.zip

ESXi65の場合:Install-VMHostPatch -VMHost <VMHost I.P address> - HostPath /vmfs/volumes/ <datastore_name>name>/ISM-Dell-Web-3.3.0-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-dell-dciSMesxi_3.4.0.ESXi650-0000-metadata.zip

- 10 次のコマンドを実行して、ホストに iDRAC サービスモジュールが正常にインストールされたかどうか確認します。esxcli software vib list|grep -i open.
- 11 iDRAC サービスモジュールが表示されます。

① メモ:上記の Power CLI コマンドを使用して iSM をインストールした後、ホスト OS を再起動します。

① メモ: Power CLI についての詳細は、VMware の公式ウェブサイトを参照してください。

VMware ESXi の iDRAC サービスモジュールのアップグレード

iDRAC サービスモジュールをアップグレードするには、esxcli software vib update -v <viburl for latest version>を実行します。

() メモ: アップグレードできる iDRAC サービスモジュールの最低バージョンは 3.1 です。

VMware ESXi の iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、次のコマンドを使用してアンインストールすることができます。

\$ esxcli software vib remove -n dcism

システム設定ロックダウンモードが有効な場合の iDRAC サ ービスモジュールのインストール

iDRAC を介してシステム設定ロックダウンモードが有効な場合は、iDRAC サービスモジュールに対して設定操作は実行できません。システム設定ロックダ ウンモードをオンにする前に有効になっていたすべての機能は、引き続き有効です。システム設定ロックダウンモードが有効になった後に iSM をインストー ルした場合は、ユーザーは以前に有効になっていた iSM 機能のみを使用することができます。iDRAC でシステム設定ロックダウンモードをオフにすると、す べての設定操作を実行できます。

iSM インストーラを取得するための iDRAC URI のサポート

第 14 世代以降のサーバの場合は、次の URL から iSM の Web パックをダウンロードできます : https:// <iDRACIP>/software/ism/ package.xmliSM LC DUP をアップロードして、iDRAC で使用可能になっている場合にのみ、パッケージをダウンロードできます。また iDRAC LC の自動 アップデートを有効にして、iDRAC にロードすることもできます。

パッケージをダウンロードするには、xml に存在するファイル名を使用して、URL に追加します。

例:

<PayloadConfiguration>

<Image filename="OM-iSM-Dell-Web-LX-3.4.0.tar.gz" id="5DD5A8BA-1958-4673-BE77-40B69680AF5D" skip="false" type="APAC" version="3.4.0"/>

<Image filename="OM-iSM-Dell-Web-LX-3.4.0.tar.gz.sign" id="E166C545-82A9-4D5D-8493-B834850F9C7A" skip="false" type="APAC" version="3.4.0"/>

<Image filename="OM-iSM-Dell-Web-X64-3.4.0.exe" id="5015744F-F938-40A8-B695-5456E9055504" skip="false" type="APAC" version="3.4.0"/>

```
<Image filename="ISM-Dell-Web-3.4.0-VIB-ESX6i-Live.zip" id="1F3A165D-7380-4691-
A182-9D9EE0D55233" skip="false" type="APAC" version="3.4.0"/>
```

<Image filename="RPM-GPG-KEY-dell" id="0538B4E9-DA4D-402A-9D96-A4A55EE2234C" skip="false"
type="APAC" version=""/>

<Image filename="sha256sum" id="06F61B54-58E2-41FB-8CE3-B7137A60E4B7" skip="false" type="APAC" version=""/>

</PayloadConfiguration>

Microsoft Windows Web パックをダウンロードするには、次の URL にアクセスします。https://<iDRACIP>/software/ism/OM-iSM-Dell-Web-X64-3.4.0.exe

VMware ESXi Live VIB パッケージを LC からダウンロードするには、次の URL にアクセスします。https://<iDRACIP>/software/ism/ISM-Dell-Web-3.4.0-VIB-ESX6i-Live.zip

Redhat Enterprise Linux Web パックをダウンロードするには、次の URL にアクセスします。https://<iDRACIP>/software/ism/OM-iSM-Dell-Web-LX-3.4.0.tar.gz

iDRAC FQDN としての idrac.local および drac.local のサポート

ホスト OS でサポートされているマルチキャストドメインネームシステム (mDNS) に関係なく、Web ブラウザに drac.local または idrac.local を入力してホ スト OS から iSM を iDRAC GUI に接続できます。

iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールの設定には次を使用することができます。

- iDRAC ウェブインタフェース
- RACADM CLI コマンド
- WSMAN コマンド

トピック :

- ・ iDRAC Web インタフェースからの iDRAC サービスモジュールの設定
- RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定
- WSMan からの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC Web <mark>インタフェースからの</mark> iDRAC サービスモジュー ルの設定

第 12 および第 13 世代のサーバで iDRAC Web インタフェースから iDRAC サービスモジュールを使用するには、概要 > サーバ > サービスモジュール の 順に選択します。

第 14 世代のサーバで iDRAC Web インタフェースから iDRAC サービスモジュールを使用するには、**iDRAC 設定 > 設定 > iDRAC サービスモジュールの** セットアップ の順に選択します。

RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールは、RACADM CLI コマンドを使用してアクセスおよび設定できます。iDRAC サービスモジュールの機能のステータスを確認する には、racadm get idrac .servicemodule コマンドを使用します。このコマンドは、iDRAC サービスモジュールの機能とそのステータスをリストします。機能は 次のとおりです。

- OS 情報
- LCL レプリケーション
- WMI 情報
- 自動システムリカバリ処置
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- iDRAC ハードリセット
- HostSNMPAlert
- HostSNMPGet
- ・ iDRAC GUI ランチャー

機能を設定または構成するには、racadm set idrac.servicemodule.<機能名> <enabled または disabled> を使用します。

() メモ:名前の先頭に # 記号が付いた機能または属性の名前は変更できません。

RACADM から iDRAC サービスモジュールを使用するには、**dell.com/support** で入手できる『RACADM Command Line Reference Guide for iDRAC8, iDRAC9, and CMC』(iDRAC8、iDRAC9、CMC 向け RACADM コマンドラインリファレンスガイド)の サービスモジュール グループにあるオブジェクトを参照してください。

WSMan からの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールには、次のコマンドを使って WSMan 経由でアクセスおよび設定できます。

iDRAC サービスモジュールを設定するには、次のコマンドを使用します。winrm i ApplyAttributes http://schemas.dmtf.org/wbem/wscim/1/cimschema/2/root/dcim/DCIM_iDRACCardService?CreationClassName=DCIM_iDRACCardService+Name=DCIM:iDRACCardService +SystemCreationClassName=DCIM_ComputerSystem+SystemName=DCIM:ComputerSystem -u:root -p:calvin -r:https://<Host IP address>/wsman -SkipCNcheck -SkipCAcheck -encoding:utf-8 -a:basic @{Target="iDRAC.Embedded.1";AttributeName="AgentLite. 1#<feature>";AttributeValue="1"}

WSMan から iDRAC サービスモジュールを使用するには、**dell.com/support** で入手できる、Web services for Management (WSMan)管理プロト コルの活用情報と例が記載された『Dell Lifecycle Controller 2 Web Services Interface Guide』(Dell Lifecycle Controller 2 Web Services インタフェ ースガイド)を参照してください。

iDRAC サービスモジュール監視機能

次のサービスが提供されます。

- OS 情報
- オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション
- 自動システムリカバリ
- ストレージデータを含む Windows Management Instrumentation プロバイダ
- NVMe SSD デバイスの取り外し準備
- リモート iDRAC ハードリセット
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート
- WSMAN のJモートでの有効化
- iDRAC サービスモジュールの自動更新
- FullPowerCycle
- ボックス上の Support Assist

() メモ: FullPowerCycle および ボックス上の SupportAssist は、第 14 世代の PowerEdge サーバでのみサポートされています。

トピッ**ク** :

- オペレーティングシステム情報
- オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション
- 自動システムリカバリ
- Windows Management Instrumentation プロバイダ
- NVMe PCIe SSD デバイスの取り外しの準備
- リモート iDRAC ハードリセット
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- GUI、WS-man、Redfish、リモート RACADM を介した iDRAC へのアクセス
- iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート
- WSMAN のJモートでの有効化
- iDRAC サービスモジュールの自動アップデート
- FullPowerCycle
- ボックス上の SupportAssist
- 帯域内 SNMP Get 機能の有効化 Linux
- 帯域内 SNMP Get 機能の有効化 Windows
- ・ iDRAC GUI の起動
- ・ ホスト OS 管理者デスクトップから iDRAC GUI へのシングル サイン オン (SSO)
- OS-BMC パススルーを介した iSM と iDRAC 間の IPv6 通信
- TLS プロトコルを使用した iSM と iDRAC 間通信のセキュリティ強化

オペレーティングシステム情報

OpenManage Server Administrator は現在、オペレーティングシステム情報とホスト名を iDRAC と共有しています。iDRAC サービスモジュールは、ホスト OS 名、サーバホスト IP アドレス情報、OS バージョン、完全修飾ドメイン名(FQDN)などの同様の情報を iDRAC に提供します。ホスト OS 上でのネットワークインタフェースも表示されます。デフォルトでは、このモニタリング機能は有効になっています。この機能は、OpenManage Server Administrator がホスト OS にインストールされている場合でも使用できます。

ホスト OS ネットワーク インターフェイスの詳細などの情報は、ブラウザーの Redfish クライアント プラグインを介して表示することもできます。

- () メモ: Redfish クライアントを使用して情報を表示するために必要な iDRAC の最小ファームウェアバージョンは 3.00.00.00 です。

オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプ リケーション

Lifecycle Controller (LC) ログを OS ログに複製します。ターゲットとして ([アラート] ページまたは同等の RACADM または WSMAN インターフェイス で) OS ログ オプションがあるすべてのイベントは、OS ログに複製されます。このプロセスは、OpenManage Server Administrator によって実行されるシス テムイベントログ (SEL) のレプリケーションと同様のプロセスです。

OS ログに含まれる一連のデフォルトのログは、SNMP トラップ/アラート用に設定されるログと同じです。iDRAC サービスモジュールがインストールされた後 に LC ログに記録されるイベントのみが OS ログに複製されます。OpenManage Server Administrator がインストールされている場合は、この監視機能 は、OS のログ内の SEL エントリの重複を避けるために無効に設定されます。

iDRAC サービスモジュールでは、LC ログを複製する場所をカスタマイズすることができます。デフォルトでは、LC ログは Windows イベントビューア の Windows ログ フォルダにある システム グループ内に複製されます。LC ログは既存グループに複製するか、または新しいフォルダを Windows イベントビ ューア の アプリケーションとサービスログ フォルダ内に作成できます。iSM がインストールされている場合に、ホスト OS が再起動または iSM が再度実 行され、iDRAC にホストのダウン中に生成された LC ログがある場合、サービスが開始されると、iSM はこれらの LC ログを OS ログの過去のイベントとして 記録します。

- メモ: LC ログを複製する場所を選択できるのは、iDRAC サービスモジュールのカスタムインストール中、または iDRAC サービスモジュールの変更中のみです。
- () メモ: iDRAC サービスモジュールの LCL ログのソース名は、iDRAC サービスモジュール から Lifecycle Controller ログ に変更されました。

自動システムリカバリ

自動システムリカバリ機能は、ハードウェア障害発生時にサーバをリセットするために使用されるハードウェアベースのタイマーです。再起動、電源の入れ 直し、指定時間経過後の電源オフなどのシステムの自動リカバリ動作を実行することができます。この機能を有効にできるのは、オペレーティングシステム のウォッチドッグタイマーが無効になっている場合のみです。OpenManage Server Administrator がインストールされていると、この監視機能は、ウォッチド ッグタイマーとの重複を避けるため、無効になります。

この機能では、iDRAC インターフェイスから次の3つのパラメーターを設定できます。

- 1 [ウォッチドッグ状態]: OMSA が存在せず、BIOS または OS ウォッチドッグ タイマーが無効になっている場合は、デフォルト状態が有効になります。
- 2 [ウォッチドッグ タイムアウト]: デフォルト値は 480 秒です。最小値は 60 秒で、最大値は 720 秒です。
- 3 [ウォッチドッグ タイムアウト リカバリー アクションまたは自動リカバリー アクション]: このアクションは、[パワーサイクル]、[電源オフ]、[再起動]、[なし] のいずれかにできます。

Windows Management Instrumentation プロバイダ

iDRAC サービス モジュールで使用できる Windows Management Instrumentation プロバイダーは、Windows Management Instrumentation(WMI) を介してハードウェア データを公開しています。WMI は Windows ドライバモデルに対する拡張機能のセットであり、オペレーティングシステムインタフェース を提供し、これを介して計装コンポーネントが情報と通知を提供します。WMI は、サーバハードウェア、オペレーティングシステム、アプリケーションを管理す るための Distributed Management Task Force (DMTF)に基づいて Microsoft が実装した Web-Based Enterprise Management (WBEM)規 格および Common Information Model (CIM)規格です。WMI プロバイダは、Microsoft System Center などのシステム管理コンソールとの統合に役 立ち、Microsoft Windows サーバを管理するためのスクリプト記述を可能にします。

使用される名前空間は\\root\cimv2\dcim です。サポートされているクエリーは Enumeration と Get です。winrm、Powershell、WMIC、 WBEMTEST などの WMI クライアント インターフェイスを使用して、iDRAC 対応プロファイルのクエリーをホスト OS 経由で実行できます。

NVMe PCIe SSD デバイスの取り外しの準備

非揮発性メモリー エクスプレス (NVMe)の Peripheral Component Interconnect Express (PCIe)ソリッド ステート デバイス (SSD)は、システムを シャット ダウンまたは再起動せずに削除できます。デバイスを削除する場合は、データ損失が発生しないように、デバイスに関連付けられているすべてのア クティビティを停止する必要があります。データ損失を防止するために、取り外し準備オプションを使用することで、すべてのデバイスに関連するバックグラ ウンドアクティビティを停止してから NVMe PCIe SSD を実際に取り外すことができます。

() メモ: VMware ESXi で 取り外し準備 操作を実行する前に、VMware のドキュメントの前提条件の手順に従ってください。

リモート iDRAC ハードリセット

iDRAC は、さまざまな理由で応答しなくなることがあります。 iSM は、 iDRAC コントローラの電源を一時的に切ることで、オペレーティングシステムの実稼 働環境に影響を与えずに応答しない iDRAC8 または iDRAC9 コントローラを完全にリセットできます。この機能の無効化は、 iDRAC の iDRAC サービス モジュール ページで iDRAC インターフェイスのいずれかを使用してのみ行えます。

iDRAC をリセットするには、次の Windows PowerShell または Linux シェルコマンドを使用します。

./Invoke-iDRACHardReset

 メモ: この機能は、第 13 世代以降の PowerEdge サーバ上で iDRAC8 を使用しており、オペレーティングシステムに管理者としてログインして いる場合にのみ機能します。

ホスト OS を介した iDRAC アクセス

デルの PowerEdge サーバを使用して、iDRAC の専用ネットワークを設定して、iDRAC 経由でハードウェアまたはデバイスのファームウェアを管理できま す。専用のネットワークポートを介して、GUI、WSMAN、RACADM、および Redfish クライアントなどの iDRAC インタフェースにアクセスできます。

ハードウェアまたはファームウェアを管理する前提条件として、デバイスとサポートされている iDRAC インタフェース間の専用接続が必要です。ホスト OS 機能経由の iDRAC アクセスを使用して、デバイスと iDRAC の専用ネットワーク間の接続に関係なく OS IP からまたはホストから iDRAC インタフェースに 接続することができます。この機能により、iDRAC がネットワークに接続されていない場合でも、ハードウェアまたはファームウェアを監視できます。

次のサブ機能のいずれからでも、ホスト OS を介した iDRAC アクセスを有効にできます。

- GUI、WS-MAN、Redfish、リモート RACADM を介したアクセス
- 帯域内 SNMP トラップ
- SNMP Get を介したアクセス

ホスト OS を介した iDRAC アクセス を選択した場合、すべてのサブ機能がデフォルトで選択されます。 個別のサブ機能のいずれかを選択したい場合は、特定の機能を選択して有効にすることができます。

詳細については、ホワイトペーパー『iDRAC Access via Host OS whitepaper』(ホスト OS を介した iDRAC アクセス)を参照してください。

GUI、WS-man、Redfish、リモート RACADM を介した iDRAC へのアクセス

ホスト OS 管理者は、GUI、WS-man、Redfish、リモート RACADM 機能により、ホスト OS を介してリモートに iDRAC インタフェースにアクセスできま す。iDRAC GUI にアクセスするには、リモート管理ステーションのブラウザに URL https:// <Host OS IP Address>: <ListenPortNumber> を入力します。

(i) メモ: ListenPortNumber は、iSM の iDRACAccessviaHostOS 機能を有効にしたときに設定されたポート番号です。

iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート

帯域外サーバ管理およびモニタリングツールである iDRAC を使用すると、SNMP トラップ / アラートをログに記録できます。ただし、帯域内エージェントを 使用するホスト OS システムマネージメントの観点では、iDRAC から受信するトラップよりもホスト OS から受信される SNMP アラートが優先されます。 SNMP アラートが iDRAC から受信された場合、アラートはシステム IP からではなく iDRAC IP からのものであるため、このアラートのソースを識別すること が難しくなります。

第 14 世代以降のサーバでは、**SNMP トラップ**オプションが (警告 ページまたは同等の RACADM または WSMAN インタフェースで) ターゲットとなって いるすべてのイベントは、iDRAC サービスモジュールを使用する OS を介して SNMP トラップとして受信することができます。iDRAC ファームウェア 3.0.0 以 降、iSM LCL レプリケーション機能を有効にする必要はありません。iDRAC サービスモジュールがインストールされた後に LC ログに記録されるイベントの みが SNMP トラップとして送信されます。

iDRAC サービスモジュールを使用することにより、iDRAC によって生成されるアラートに類似した SNMP アラートをホスト OS から受信できます。

- ① メモ: デフォルトでこの機能は無効になっています。帯域内 SNMP アラートメカニズムは iDRAC SNMP アラートメカニズムと共存可能ではありますが、記録されたログには両方のソースからの重複した SNMP アラートが含まれる場合があります。両方を使用する代わりに、帯域内または帯域外のオプションのいずれかを使用することが推奨されます。
- (i) メモ: 帯域内 SNMP 機能は、バージョンが最小 2.30.30.30 の iDRAC ファームウェアを持つ第 12 世代以降のデル PowerEdge Server で 使用することができます。

詳細については、ホワイトペーパー『In-Band iDRAC SNMP Alerts』(帯域内 iDRAC SNMP アラート)を参照してください。

WSMAN のリモートでの有効化

現在、WMI 情報機能を使用してホストの Microsoft Windows WMI 名前空間に接続し、システムのハードウェアを監視できます。ホスト上の WMI イ ンタフェースはデフォルトで有効であり、リモートでアクセスできます。ただし、WINRM の WMI アダプタを使用して WMI インタフェースにアクセスする場合、 デフォルトでは有効になっていないため、手動で有効にする必要があります。この機能を使用すると、WINRM WMI 名前空間をインストール中に有効に してリモートでアクセスできます。

この機能には、PowerShell コマンドを使用してアクセスできます。使用するコマンドは次のとおりです。

表 9. WSMAN のリモートでの有効化

コマンド	説明
Enable-iSMWSMANRemote —Status enable — Forcereconfigure yes —Createselfsigncert yes — IPAddress <ip address=""> —Authmode Basic, Kerberos, Certificate</ip>	リモート WSMAN 機能の有効化と設定
Enable-iSMWSMANRemote -Status get	リモート WSMAN 機能のステータスの表示

コマンド			

説明

Enable-iSMWSMANRemote -Status disable

Enable-iSMWSMANRemote -Status enable -Forcereconfigure yes -Createselfsigncert yes -IPAddress <IP address> WSMAN リモート機能の無効化 リモート WSMAN 機能の再設定

() メモ: この機能を操作するには、サーバの認証証明書と https プロトコルが必要です。

iDRAC サービスモジュールの自動アップデート

iDRAC サービスモジュールを自動的にアップデートできます。iSM 自動アップデートを iDRAC 自動アップデートプロセスに統合して、アップデートプロセスを 容易にすることが目標です。

- () メモ: iDRAC 自動アップデートが有効になっている場合、iDRAC サービスモジュール LC DUP を dell.com/support から最新バージョンにアッ プデートする必要があります。
- () メモ: support.dell.com からアップデートをダウンロードする必要はありません。更新された iSM パッケージは iDRAC でローカルに使用できます。
- iSM をインストールまたはアップデートするには、コマンドプロンプトに dcism-sync.exe と入力します。インストールウィザードの手順を完了します。
- ヘルプコンテンツを表示するには、--help/-hと入力します。
- サイレントインストールまたはアップデートを行うには、--silent/-sと入力します。
- 現在のバージョンをアンインストールして LC で使用可能なアップデートパッケージをインストールするには、--force/-f と入力します。

① メモ:このオプションは、前の設定を上書きします。

- アップデートパッケージのバージョンと、iDRAC サービスモジュールにインストールされているバージョンの詳細を取得するには、--get-version/-v と入力します。
- ・ iDRAC サービスモジュールアップデートパッケージをユーザー指定のディレクトリにダウンロードするには、--get-update/-gと入力します。
- 特定の機能をインストールするには、msiexec.exeで使用される CLI 引数と同じように、dcism-sync.exe -p "feature"と入力します。

たとえば、Windows でホスト OS の iDRAC 機能を介して iDRAC アクセスをインストールするには、dcism-sync.exe -p "ADDLOCAL=IBIA" と入力します。

FullPowerCycle

FullPowerCycleは、サーバの補助電源をリセットする方法を提供するインタフェース呼び出し機能です。サーバの補助電源で動作するサーバハードウェアの数が増加しています。また、トラブルシューティングのために、サーバの電源コードを物理的に抜いて、補助電源で動作するハードウェアをリセットする 必要があるサーバの問題もあります。誰かに電源コードを物理的に抜く/差し込んでもらうことは、大幅なコストとお客様やサポート担当者の手間につながります。

FullPowerCycle 機能を使用すれば、データセンターにアクセスせずにリモートから補助電源を接続または切断できます。この機能は、Dell EMC PowerEdge サーバの第 14 世代以降でサポートされます。

このインタフェースを介してフルパワーサイクル要求が発行されたとき、システム電源はすぐに影響を受けません。代わりに、システムが S5 状態に移行した ときに照会されるフラグが設定されます。FullPowerCycle 機能を有効にするには、要求コマンドの発行後に、システムのシャットダウンコマンドも発行する 必要があります。このフラグが S5 エントリに設定されている場合、AC を取り外して交換するのと同様に、システムが強制的に一時的な低電力状態にな ります。このフラグは、システムが S5 状態に入る前の、システムが S0 状態にあるときにはいつでも、キャンセル 機能を使用して、クリアできます。

システムで異なる FullPowerCycle オプションを利用可能にすることができます。システムでのフルパワーサイクルを要求、ステータスを取得、キャンセルするには、次のコマンドを使用します。

Windows オペレーティングシステムの場合、FullPowerCycle 有効化(要求)、FullPowerCycle のキャンセル、FullPowerCycle のステータス取得の操作へのショートカットメニューが使用可能です。

• システムで FullPowerCycle を要求するには、「./Invoke-FullPowerCycle -status request」と入力します。

① メモ: サーバのオペレーティングシステムによって仮想 AC パワーサイクル動作がトリガされたというメッセージが表示されます。

- システムでフル パワー サイクルのステータスを取得するには、「./Invoke-FullPowerCycle -status get と入力します。
- システムでフル パワー サイクルをキャンセルするには、「./Invoke-FullPowerCycle -status cancel」と入力します。

① メモ:スケジュールされた日付と時刻にシステムがオフになるというメッセージが表示されます。

- Linux オペレーティング システムで FullPowerCycle を要求するには、「/opt/dell/srvadmin/iSM/bin/Invoke-FullPowerCycle request」と入力します。
- Linux オペレーティング システムで FullPowerCycle をキャンセルするには、「/opt/dell/srvadmin/iSM/bin/Invoke-FullPowerCycle cancel」と入力します。
- Linux オペレーティング システムで FullPowerCycle のステータスを取得するには、「/opt/dell/srvadmin/iSM/bin/Invoke-FullPowerCycle get-status」」と入力します。

各 FullPowerCycle 操作が正常に終了すると、オペレーティングシステムログおよび LCL に次のメッセージが表示されます。

要求メッセージ:"The Full Power Cycle operation is triggered by the server operating system (OS) user <user name> from the OS on date <date>. However, the server components will be AC power cycled when the server is shut down".

 $\pm \nu \nu \nu$ "The Full Power Cycle operation is successfully cancelled by the server operating system (OS) user <user name> from the OS on date <date>".

() メモ: FullPowerCycle 機能は、ESXi オペレーティング システムでは使用できません。

メモ: FullPowerCycle 機能は、ローカル / ドメイン管理者または root / sudo ユーザーのみ使用できます。

ボックス上の SupportAssist

SupportAssist は時間を節約し、テクニカルサポートのサポートケースを合理化しますイベントベースのコレクションは、SupportAssist を使用してオープン サービスリクエストを作成します。スケジュールされたコレクションは、環境の監視と維持をサポートします。これらのコレクションには、ハードウェアデータ、 RAID コントローラログ、OS、およびアプリケーションデータが含まれます。サポートされている機能は次の通りです。

- SupportAssist 登録 iSM は、SupportAssist 登録をサポートします。これは、1回限りのアクティビティです。名前、電子メール、住所、電話番号 などの必要な詳細情報を入力して、登録を完了します。
- SupportAssist Collection iDRAC の SupportAssist Collection 機能は、ハードウェア、OS、および関連するアプリケーションデータについての 情報を収集し、この情報を圧縮します。

SupportAssist は、次のことも提供します。

- プロアクティブな問題の識別
- ケースの自動作成

٠

• デルのテクニカルサポートのエージェントが開始するサポートの連絡

() メモ: SupportAssist を利用するには、登録を完了する必要があります。

SupportAssist ダッシュボードには、次の項目を表示できます。

サービスリクエストサマリ

サービスリクエストサマリのセッションでは、次のリクエストの詳細を表示できます。

オープン

- ・ クローズ
- 送信済み

Support Assist の概要

契約タイプと有効期限の日付およびこのセッションの 自動収集 設定の詳細などのサービス契約 詳細を参照できます。

サービスリクエスト タブで、作成されたリクエストとステータス、説明、ソース、サービスリクエスト ID、オープンした日付、クローズした日付などのリストを表示することもできます。

コレクションログ タブをクリックすると収集日時、ジョブ ID、コレクションタイプ、収集したデータ、収集ステータス、送信時刻などを表示することができます。

- () メモ:第 14 世代サーバ以降、iDRAC から SupportAssist コレクションを手動で開始すると、USB 大容量ストレージデバイスはホスト OS に 公開されません。OS コレクタファイルおよび収集したログファイルの転送は、iDRAC と iSM との間で内部的に処理されます。
- () メモ: ESXi での OS およびアプリケーションデータの収集は、第 14 世代以降の PowerEdge サーバでのみサポートされています。

SupportAssist 登録

登録を開始する前に、iDRAC サービスモジュールがインストールされ、ホスト OS 上で実行されていること、適切なインターネット接続が利用できることを 確認します。

- iDRAC にログインします。メンテナンス ドロップダウンメニューで、SupportAssist 機能を選択します。
 SupportAssist 登録 ウィザードが表示されます。
- 2 ようこそ タブで、次へ をクリックします。
- 3 連絡先および配送先情報 タブで、名前、姓、電話番号、代替番号、電子メールアドレス、会社名、住所 1、住所 2、市、県、郵便番号、および 国 などの主要連絡先情報を入力します。
 - ① メモ: セカンダリ連絡先の追加 オプションをクリックして二次連絡先情報を追加できます。
 - 🕕 メモ: 登録を続行するには、必要なすべての必須情報を入力する必要があります。
- 4 連絡先および配送先情報を入力したら、次へをクリックします。
- 5 ソフトウェアライセンス契約を読んで、ライセンス契約の条件に同意しますを選択してから、登録をクリックします。

 メモ: 登録プロセスの完了には数分かかる場合があります。登録が正常に完了すると、登録した電子メールアドレスに SupportAssist からようこそ電子メールを受信します。

- 6 サマリタブに、登録 ID および 自動機能 の現在の設定の詳細情報が表示されます。
- 7 SupportAssist 登録 ウィザードを終了するには、閉じる をクリックします。 SupportAssist ページで、下部へ移動すると連絡先情報を表示できます。
- 8 編集オプションをクリックして、プライマリまたはセカンダリ連絡先情報を変更します。保存をクリックして変更を適用します。

SupportAssist Collection

iDRAC の SupportAssist Collection 機能は、ハードウェア、OS、関連アプリケーションのデータに関する情報を収集して圧縮します OS Collector ツー ルを手動で実行し、SupportAssist Collection レポートを生成します。 iDRAC サービスモジュールを使用すると、OS コレクタツールが関連する OS およ びハードウェア情報を自動的に収集します。サポートログの自動収集には、OS およびアプリケーションの情報収集も含まれます。

iDRAC サービスモジュールを使用すると、収集プロセスが自動化されるため、テクニカルサポートレポート収集の手順が節約できます。

収集するデータ

イベントベースのトリガがある場合、およびまたはスケジュールされたペースで、SupportAssist は自動的にコレクションを作成し、テクニカルサポートに送信 します。次のタイプの情報を収集できます。

- システム情報
- ・ ストレージログ
- OS およびアプリケーションデータ
- ・ デバッグログ

また SupportAssist Collection 関数は、次のコマンドを使用して、指定したファイルパスに対して、オペレーティングシステムのシェルから実行できます。

- ./ Invoke-SupportAssistCollection [--filepath/-f]
- メモ: このシェルコマンドは、第14世代以降の PowerEdge サーバ上で iDRAC9 を使用しており、オペレーティングシステムに管理者としてログ インしている場合にのみサポートされます。

収集プリファランス

ユーザーは、この機能を使用してコレクションのプリファレンスを選択または設定できます。いずれかのタイプのコレクションのプリファレンスを選択して、コレクションレポートを保存することができます。

- 今すぐ送信 収集 オプションをクリックすると、「the job has been successfully added to the job queue」という通知を受信します。
- ローカルで保存
- ネットワークに保存 このオプションを選択すると、プロトコル、IP アドレス、共有名、ドメイン名、ユーザー名、および パスワード などの ネットワーク設定 の詳細を入力する必要があります。

コレクションプリファレンスのいずれかを選択し、収集をクリックしてデータを受信できます。

- メモ: この機能は、対応 Microsoft または Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムでの iDRAC サービスモジュール 2.0 以降の バージョンのインストール時に、デフォルトで使用可能になります。この機能を無効にすることはできません。
- (i) メモ: CentOS では、Automatic SupportAssist Collection の OS ログ収集機能はサポートされません。
- () メモ: ESXi での OS およびアプリケーションデータの収集は、第 14 世代以降の PowerEdge サーバでのみサポートされています。

匿名のレポート収集

iDRAC サービスモジュールのバージョン 3.1 以降は、登録プロセスを完了せずに SupportAssist Collection / アップロードを実行することができます。 ISM 3.0.2 までは、SupportAssist Collection の実行には登録が必須条件でした。

匿名の収集機能がサポートされている iDRAC ファームウェアは、第 14 世代 PowerEdge サーバの 3.15.15.15 と、第 12 世代および第 13 世代 PowerEdge サーバの 2.60.60.60 です。

 メモ:第13世代 PowerEdge サーバのプロキシ環境では、ユーザー名またはパスワードを空白にしたまま、Anonymous SupportAssist Collection アップロードを実行できます。

SupportAssist Collection の設定

iDRAC ページの SupportAssist ダッシュボードを移動し、[設定]ドロップダウンメニューをクリックして、SupportAssist Collection 設定を開きます。

アーカイブディレクトリの設定

ディレクトリに SupportAssist が実行したコレクションのコピーを保管できます。アーカイブディレクトリの設定 ボタンをクリックして場所を設定する必要があります。

識別情報

ドロップダウンメニューをクリックし、次のオプションのいずれかを選択すると、送信するデータに識別情報を含めることができます。

- 無
- ・有

電子メール通知

新しいサポートケースが開かれるか、または新しい SupportAssist コレクションがアップロードされたら、電子メール通知を受信する個別設定を選択できます。電子メール通知ドロップダウンメニューから、次のいずれかのオプションを選択します。

- ・有
- 無

言語の設定を選択することもできます。利用可能な言語は次の通りです。

- 英語
- ・ ドイツ語
- ・ フランス語
- ・ 日本語
- ・ スペイン語
- 簡体字中国語

自動収集

自動収集機能はデフォルトで有効です。この機能を無効にするには、ドロップダウンメニューを使用します。

- Enable (有効)
- Disable (無効)

スケジュールの自動コレクションドロップダウンメニューから次のオプションのいずれかを選択してスケジュールする収集の時間を指定できます。

- 毎週
- ・毎月
- 每四半期
- ・ なし

自動収集を反復として設定することもできます。

ProSupport Plus 推奨事項レポートを表示するには、ProSupport Plus 推奨事項レポートの送信 から はい を選択します。 プリファレンスの設定後に、適用 をクリックして変更を保存します。

iSM SupportAssist ディスクの自動ディスパッチ

ISM 3.4 以降では、サーバーで **PDR16 と PDR63** のどちらかの SNMP イベントが発生すると、障害を予測したディスパッチまたは一般的なライセンス条 件の対象となる SSD などの不良ディスクブロックに関して、推奨事項が Dell EMC サポートから E メールで通知されます。E メールを受信したら、フォロー アップを行い、ディスパッチされたパーツの配送用サービス アドレスを Dell EMC サポートに連絡してください。

() メモ: この機能は、Windows オペレーティング システムでのみサポートされています。

iSM 3.4.0 は、ESXi でのフィルターおよび非フィルターの **OSApp コレクション** (OS およびアプリケーション データコレクション) をサポートします。 この選択 は、 [**コレクション プリファランス**] から行うことができます。

非フィルターの選択コレクションには、Logs、Network、Storage、Configuration、Installer、HungVM、PerformanceSnapshot、 VirtualMachines、hostProfiles の vmsupport ログがあります。

フィルターされた選択コレクションには、Storage、Configuration、Installer、HungVM、PerformanceSnapshot、VirtualMachines、hostProfiles の vmsupport ログがあります。

帯域内 SNMP Get 機能の有効化 - Linux

リモート システムからの SNMP 要求を受信するには、net-snmp パッケージをインストールして設定します。この機能はデフォルトで無効です。 setup.sh インストーラで帯域内 SNMP Get 機能をインストールするには、次のタスクを実行します。

- 1 ./setup.shを実行し、setup.shスクリプトで iSM のインストールを開始します。
- 2 ライセンス契約を確認して同意し、インストールを続行します。
- 3 次のページに、機能のリストが表示されます。4.c と入力し、ホスト OS を介した iDRAC アクセス 下にある SNMP Get を介したアクセス サブオ プションを選択して、Enter を押します。
- 4 この機能が有効になった後、Iと入力して Enter を押し、選択した機能のインストールプロセスを開始します。
- 5 インストールが正常に終了した後に、iDRAC サービスモジュールのプロセスを開始します。 SNMP エージェントサービスが iDRAC で有効でない場合は、iSM は SNMP エージェントを有効に設定します。
- 6 SNMP エージェントのプロパティを表示するには、iDRAC GUI で設定に移動します。
- 7 iDRAC サービスモジュールのセットアップ をクリックします。
- 8 監視 セッションで、ホスト OS を介して SNMP Get オプションが有効であることを確認します。
- 9 新しい「PuTTY の設定」ウィンドウを開き、ホスト名の IP アドレスを入力し、開くをクリックします。
- 10 PuTTy セキュリティアラート ではいをクリックします。
- 11 正しい資格情報で iDRAC にログインします。
- 12 racadm get iDRAC.ServiceModule.HostSNMPGet と入力して、Enter を押します。 HostSNMPGet が有効であることが表示されます。
 - ① メモ: 帯域内 SNMP Get 機能が iSM のインストール中に有効にされなかった場合、iDRAC GUI/Racadm コマンドで後から有効に することができます。
 - iDRAC GUI から iDRAC 設定 -> 設定 -> iDRAC サービスモジュールのセットアップ -> ホスト OS を介して SNMP Get を有効 化 -> 有効または無効
 - Racadm から racadm set idrac.servicemodule.HostSnmpGet「有効」または「無効」
 - メモ:帯域内 SNMP Get 機能用の iDRAC GUI/Racadm コマンドは、第 14 世代のサーバのみに適用されます。第 12 および 13 世代のサーバでこの機能を有効 / 無効にするには、iSM インストーラを使用する必要があります。

① メモ: SNMP Get 機能が有効になると、SNMPv3 に対応するため内部的に iDRAC ユーザー「iSMSnmpUser」が作成されます。ユ ーザーがすでに存在する場合、「ユーザー名がすでに存在するため、iDRAC に「iSMSnmpUser」を作成できません。ホスト OS を介 した SnmpGet 機能は無効になります。」というエラーメッセージをログに記録され、この機能は無効になります。このような場合は、 iDRAC の「iSMSnmpUser」を削除し、ホスト OS を介した SNMP Get の有効化 機能を iDRAC GUI からもう一度有効にします。 この機能を無効にするか、または iSM をアンインストールすると、iSM によって作成された「iSMSnmpUser」は削除されます。

帯域内 SNMP Get 機能の有効化 - Windows

帯域内 SNMP Get 機能により、ホストオペレーティングシステムで SNMP サービスでシステム管理データを照会することができます。この機能を使用するための前提条件として、ホストの SNMP サービスを有効に設定する必要があります。

iDRAC で SNMP サービスを有効にする必要があります。有効でない場合は、iDRAC サービスモジュールが iDRAC で SNMP サービスを有効に設定します。この機能は、iDRAC インタフェースまたはインストーラで、有効または無効にすることができます。

この機能は、Microsoft Windows オペレーティングシステムでは SNMP v1 および v2 をサポートし、Linux オペレーティングシステムでは v1、v2、v3 をサポートします。

() メモ: 帯域内 SNMP Get 機能用の iDRAC GUI/Racadm コマンドは、第 14 世代のサーバのみに適用されます。

() メモ: iDRAC サービスモジュール 3.1 は、iDRAC SNMP OID 1.3 のみをサポートします。 6.1.4.1.674.10892.5.

iDRAC GUI の起動

iDRAC サービスモジュール 3.1 以降では、ローカルシステムから iDRAC GUI を起動できます。 **iDRAC GUI の起動** アイコンをダブルクリックします。 デフォルトのブラウザに、 iDRAC GUI のログインページが開きます。 iDRAC 資格情報で、 iDRAC ホームページにログインします。 Microsoft Windows オペレーティングシステムでのみサポートされます。 iSM 3.1 以降が正常にインストールされている場合は、 スタートメニューからショートカットを使用できます。

メモ: iDRAC サービスモジュールが無効の場合は、iDRAC GUI の起動アイコンも無効です。

ホスト OS 管理者デスクトップから iDRAC GUI へのシング ル サイン オン (SSO)



iSM 3.4 以降では、ホスト管理者はホスト OS 内から iDRAC を起動することができます。[iDRAC SSO ランチャー] を使用するには、ホスト OS のデス クトップ環境が必要です。

() メモ: 管理者以外は、ホスト OS でこの機能にアクセスできません。

シングル サイン オン (SSO)機能を使用すれば、認証された OS 管理者は、個別の iDRAC 管理者認証情報によるログインなしで、iDRAC Web イン ターフェイスにアクセスできます。この機能をインストールすると、[Invoke-iDRACLauncher]という [プログラム]メニュー ショートカットが Microsoft Windows オペレーティング システム上に作成されます。Linux オペレーティング システムの場合は、[アプリケーション]の下にショートカットが作成される ので、それをダブルクリックすると iDRAC ダッシュボードが起動します。 iSM のコマンド ライン インターフェイスは、Microsoft Windows オペレーティング シス テムでは [Invoke-iDRACLauncher]、Linux オペレーティング システムでは [Invoke-iDRACLauncher.sh]と呼ばれます。 ユーザーが選択できる iDRAC へのログイン権限は2種類あります。

- 読み取り専用ユーザー: iSM 3.4 の簡易または標準インストールでは、iDRAC SSO ランチャーがインストールされ、管理者は読み取り専用ユーザーとして iDRAC にログインできます。コンポーネントの正常性ステータス、ログ、インベントリーの表示機能に加えて、サービス技術者が必要とする追加の SupportAssist 操作も複数有効になります。
- 管理者ユーザー:管理者権限を選択してこの機能をインストールした場合、ホスト OS 管理者はオペレーター ユーザーとして iDRAC にログインでき るようになります。このユーザーは、iDRAC ユーザーの設定および削除と Lifecycle ログの消去を除き、iDRAC ルート ユーザーと同等の操作をすべて 実行できます。
- () メモ: 読み取り専用およびオペレーターのユーザー アカウントに付与される権限については、『*iDRAC 9 User's Guide*』(iDRAC 9 ユーザーズ ガイド)を参照してください。

ホスト OS から iDRAC へのシングル サイン オンを無効にする : この機能は完全に無効にすることもできます。この機能を無効にして iSM がインストールされている場合、[iDRAC GUI ランチャー]を実行すると、iDRAC ログイン ページはデフォルト ブラウザーで起動されます。

() メモ: [Invoke-iDRACLauncher]は iSM サービスから独立しており、iSM サービスが停止していても起動できます。

メモ: ブラウザーがホスト OS にインストールされていない場合や、ブラウザーの問題で [Invoke-iDRACLauncher] が iDRAC を起動できない場合でも、iDRAC ではセッションがすでに作成されています。iDRAC 管理者ユーザーは、iDRAC にログインしてセッションを削除できます。

[OS から iDRAC へのパススルー]の各状態における [iDRAC GUI の起動]の動作は次のとおりです。

- [**OS から iDRAC へのパススルー**] 設定が iDRAC で無効になっている場合、USBNIC モードで OSBMC パススルーを有効にすると、InvokeiDRACLauncher プロンプトが表示されます。
- ・ [OS から iDRAC へのパススルー]設定がすでに LOM モードで設定されている場合、iDRAC ランチャーは iDRAC GUI を起動しません。
- [OSからiDRACへのパススルー設定]がiDRACで無効になっていて、[設定を使用したiDRACローカル設定を無効にする]も無効になっているか、ロックダウンモードがiDRACで有効になっている場合、iDRACGUIは起動されません。
 - ① メモ: [設定を使用したローカル設定]または [*RACADM*を使用したローカル設定]が iDRAC で無効になっている場合、iDRAC ロ グイン画面が表示されます。
- メモ:ホスト OS で iDRAC SSO セッションがアクティブになっている場合、関連するターミナルを閉じると、SSO セッションのブラウザーも閉じます。
- () メモ: [*iDRAC GUI*の起動]の実行は、サポートされている GUI または対応インターフェイスから行ってください。
- メモ: ホスト OS の USBNIC インターフェイスが IPv6 アドレスで設定されている場合、[*iDRAC GU* の起動] によって iDRAC UI は開かれません。

前提条件

Linux パッケージ:

- 1 Mozilla firefox などのブラウザー。
- 2 Sudo.
- 3 第 14 世代 PowerEdge サーバー。
- 4 iDRAC ファームウェア バージョン 3.30.30.30 以降。

Linux オペレーティング システムの制限事項

Linux オペレーティング システム用の iDRAC SSO ランチャーの制限は次のとおりです。

1 iSM は、GNOME 以外のデスクトップ ユーティリティーをサポートしていません。

2 iSM は Mozilla firefox 以外のブラウザーをサポートしていません。

() メモ: iDRAC で KCS/racadm を介したローカル設定が無効になっている場合、iDRAC ログイン画面が表示されます。

OS-BMC <mark>パススルーを介した</mark> iSM と iDRAC 間の IPv6 通 信

iSM3.4 以降は、IPv4 と IPv6 の両方の通信モードをサポートします。 iSM をインストールすると、 iSM サービスは IPv4 リンク ローカル アドレスで iDRAC に接続しようとします。 ホスト USBNIC インターフェイスに IP アドレスがない場合、 iSM はホストで IPv4 アドレスを設定しようとします。 このような iSM によるホスト OS での USBNIC インターフェイス設定は、1度だけ実行されます。 ホスト OS での USBNIC 設定がうまくいかない場合のシナリオが用意されて いる場合は、 iSM は iDRAC から切断されたままになります。 IPv4 アドレスの設定後も接続に失敗する場合、 iSM は IPv6 で iDRAC と接続しようとします。

メモ:この機能は、Linux オペレーティング システムでのみサポートされています。

() メモ:ホスト OS で IPv6 ネットワーク スタックが無効になっている場合、iSM は IPv4 での iDRAC との通信を再試行します。

どちらか一方のプロトコルが無効になっている場合、iSM は無効になっているプロトコルを使用して iDRAC に接続しようとはしません。

() メモ: iDRAC のファームウェア バージョンが USBNIC での IPv6 をサポートしていない場合、iSM と iDRAC との接続は IPv4 を使用して確立 されます。

iDRACとiSMの接続に使用されているプロトコルのバージョンは、iSMによって記録される個々の監査メッセージによって確認できます。

 メモ: すでにホスト OS で iDRAC USBNIC が IPv6 アドレスのみで設定されている状況で iSM がホストにインストールされると、iSM と iDRAC との通信は IPv4 プロトコルを使用して開始されます。

IPv6 プロトコルでサポートされない機能

iSM が IPv6 プロトコルで設定されていて、USBNIC インターフェイスで IPv4 設定が使用できない場合にサポートされない機能は、次のとおりです。

- 帯域内 iDRAC アクセス
- ・ iDRAC GUI の起動
- ・ iDRAC GUI ランチャー
- ・ idrac.local および drac.local
- iSM の自動アップデート

TLS プロトコルを使用した iSM と iDRAC 間通信のセキュリ ティ強化

iSM 3.4 以降、iSM とiDRAC 間のデータ通信は TLS 保護された USBNIC INET ソケットを介して行われます。そのため、USBNIC 経由で iDRAC から iSM に転送されるすべてのデータが確実に保護されます。 iSM と iDRAC は、自己署名証明書を使用して認証を制御します。自己署名証明書の有 効期限は 10 年です。 iSM をインストールするたびに、常に新しい自己署名証明書が生成されます。 証明書の有効期限が切れた場合は、 iSM を再イ ンストールまたはアップグレードしてください。

- メモ: iSM の再インストール (修復)は Linux オペレーティング システムでは機能しません。 Linux オペレーティング システムの場合、iSM をア ンインストールしてからインストールする必要があります。
- メモ: iSM の TLS(クライアント)証明書の期限が切れると、iSM と iDRAC 間の通信が失敗するようになり、それを示す OS 監査ログが生成 されます。その場合、ホスト OS に iSM を再インストールする必要があります。

iDRAC とホスト TLS のバージョンはどちらも 1.1 以上である必要があります。 TLS プロトコルのバージョンに関するネゴシエーションが失敗すると、 iSM と iDRAC 間の通信は失敗します。 TLS 機能を備えた iSM のインストール先が、 USBNIC 経由の TLS 通信をサポートしない iDRAC ファームウェアである 場合、 旧バージョンの iSM と同様に、 非 TLS チャネルで動作します。

() メモ: TLS 機能を備えた iSM をサポートする iDRAC ファームウェアのバージョンは 3.30.30.30 以降です。

メモ: TLS 機能を備えていない iSM は、TLS 対応バージョンの iDRAC ファームウェアでは機能しません。例: TLS 非対応である iSM 3.3 以降は、iDRAC ファームウェアの 3.30.30.30 以降ではサポートされません。

(i) メモ: iSM 3.3.0 を iDRAC 3.30.30.30 ファームウェアにインストールした場合、複数の ISM0050 イベントが LCLog に記録されます。

よくあるお問い合わせ(FAQ)

本項では、iDRAC サービスモジュールに関する FAQ をリストしています。

iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前 に、OpenManage Server Administrator をアンインストー ルする必要はありますか?

番号 iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、iDRAC サービスモジュールの OpenManage Server Administrator 機能が停止していることを確認してください。

(i) メモ: OpenManage Server Administrator をアンインストールする必要はありません。

システムに iDRAC サービスモジュールがインストールされて いることを確認する方法を教えてください。

iDRAC サービスモジュールがインストールされているかどうかを確認するには、次の操作を実行します。

- Windows の場合:
- service.mscコマンドを実行します。DSM iDRAC サービスモジュール という名前のサービスがない場合は、サービスのリストから探します。
- Linux の場合:

/etc/init.d/dcismeng status コマンドを実行します。iDRAC サービスモジュールがインストール済みで実行されている場合は、ステータス が 実行中 となります。

 ジモ: init.d コマンドの代わりに systematl status daismeng.service コマンドを使用して、iDRAC サービスモジュールが RedHat Enterprise Linux 7 および SUSE Linux Enterprise 12 オペレーティングシステムにインストールされているかどうかチェックします。

システムにインストールされている iDRAC サービスモジュール のバージョンを確認する方法を教えてください。

iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認するには、スタートコントロールパネルプログラムと機能 の順にクリックします。インストールされている iDRAC サービスモジュールのバージョンが バージョン タブに一覧表示されます。また、マイコンピュータ プログラムのアンインストールまたは変更 を選択 しても、バージョンのチェックを実行できます。

iDRAC サービスモジュールをインストールするために必要な 最低許可レベルは何ですか?

iDRAC サービスモジュールのインストールには、オペレーティングシステムの管理者レベルの権限が必要です。

iDRAC サービスモジュールをインストールしようとすると、こ のサーバーはサポートされていません というエラーメッセージ が表示されます。対応サーバーの詳細については、『ユーザ ーズガイド』を参照してください。どうすればよいですか?

iDRAC サービスモジュールをインストールする前に、iDRAC サービスモジュールのインストール先であるサーバまたはシステムが第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバであることを確認してください。また、64 ビットシステムを使用していることも確認します。

USBNIC 経由の OS to iDRAC パススルーが正しく設定されていても、iDRAC サービスモジュールは、OS to iDRAC パススルーチャネルを使用して、iDRAC と通信できません というメッセージが OS ログに表示されます。このメッセージが表示されるのはなぜですか?

iDRAC サービスモジュールは、USBNIC 経由の OS から iDRAC へのパススルーを使用して iDRAC との通信を確立します。時折、正しい IP エンドポイン トが設定された USBNIC インタフェース経由でこの通信が確立されないことがあります。これは、ホスト OS のルーティングテーブルに同じ宛先マスクに対 する複数のエントリが含まれており、USBNIC 宛先がルーティング順序の最初にリストされていないときに発生する可能性があります。

表 10. 詳細

Destination(送信 先)	ゲートウェイ	Genmask	フラグ	メトリック	参照	使用インタフェース
デフォルト	10.94.148.1	0.0.0.0	UG	1024	0	0 em1
10.94.148.0	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 em1
link-local	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 em1
link-local	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 enp0s20u12u3

この例では、enpOs2Ou12u3 が USBNIC インタフェースであり、リンクローカル宛先マスクが繰り返され、USBNIC が順序の最初になっていません。このため、OS to iDRAC パススルー経由の iDRAC サービスモジュールと iDRAC 間における接続問題が発生する結果となります。接続問題のトラブルシューティングを行うには、次の手順のいずれかを実行することができます。

iDRAC USBNIC IPv4 アドレス (デフォルトで 169.254.1.1) がホスト OS から到達可能であることを確認します。 到達可能でない場合は、 次の手順を実 行します。

- 一意の宛先マスクで iDRAC USBNIC アドレスを変更します。
- 不要なエントリをルーティングテーブルから削除し、ホストが iDRAC USBNIC IPv4 アドレスに到達したい時に USBNIC がルートによって選択されるようにします。

iDRAC サービスモジュールをインストールしようとすると、このオペレーティングシステムがサポートされていないというエラーメッセージが表示されます。

iDRAC サービスモジュールをインストールできるのは、対応オペレーティングシステム上のみです。対応オペレーティングシステムについての情報は、「対応 オペレーティングシステム」を参照してください。

リモート iDRAC ハードリセット機能を使用して iDRAC をリ セットしました。しかし、IPMI が応答せず、トラブルシューテ ィングができません。

VMware ESXI 5.5 U3 または ESXI 6.0 U1 でリモート iDRAC ハードリセット機能を使用しようとすると、IPMI ドライバが応答しなくなり、そのために iDRAC サービスモジュールの通信が停止されます。この問題を解決するには、サーバを再起動して、IPMI ドライバを再度ロードする必要がある場合があ ります。

複製された LifeCycle ログはオペレーティングシステムのどこ にありますか?

複製された Lifecycle ログを表示するには、次の手順を実行します。

表 11. よくあるお問い合わせ

オペレーティングシステム	場所
Microsoft Windows	イベントビューア Windows ログく既存のグループまたはカスタムフォルダ> を選択します。 iDRAC サービスモジュールのすべての LifeCycle ログは、 iDRAC Service Module というソース名の下で複製されます。
Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux、CentOS、および Citrix XenServer	/var/log/messages
VMware ESXi	/var/log/syslog.log

Linux オペレーティングシステムでアラートを送信するために iDRAC サービスモジュールで設定されているデフォルトの SNMP プロトコルは何ですか ?

デフォルトでは、SNMP 多重化プロトコル (SMUX)が iDRAC サービスモジュールでアラートを送信するよう設定されています。

SMUX がシステムでサポートされていません。アラートを送 信するためにはどのプロトコルを設定する必要があるでしょ うか?

SMUX がシステムでサポートされていない場合、Agent-x がデフォルトのプロトコルとして使用されます。

Agent-x プロトコルを使用してデフォルトでアラートを送信す るよう設定するには、iDRAC サービスモジュールをどのように 設定しますか?

./Enable-iDRACSNMPTrap.sh 1/agentx -force コマンドを使用して、Agent-xをデフォルトのプロトコルとして設定できます。-force が指定されていない場合は、net-SNMP が設定され、snmpd サービスを再起動していることを確認します。

Linux のインストール中にインストールする必要がある Linux 依存パッケージまたは実行可能プログラムは何があり ますか ?

Linux 依存パッケージのリストを確認するには、「Linux 依存性」を参照してください。

Windows イベントビューアにカスタムフォルダを作成しました が、LC ログがカスタムフォルダに複製されていません。ここで LC ログを複製するにはどうすればよいですか?

カスタムフォルダの作成後に Windows イベントビューア を閉じるようにしてください。その後再度 Windows イベントビューア を開いて、複製された LC ログを表示してください。

iDRAC サービスモジュールのインストール中に、グラフィカル ユーザーインタフェースからカスタムインストールオプションを 選択して、ある機能を無効化したのですが、その機能を他 のインタフェースから有効化することができません。この機能 を再び有効化するにはどうすればよいですか?

Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行するシステムでは、インストーラを使用して有効化され、そのインストーラ以外のインタフェースを使用 して無効化された機能を有効化することができるのは、同じインタフェース、またはグラフィカルユーザーインタフェースモードのインストーラのみです。 例えば、iDRAC サービスモジュールのインストール中にグラフィカルユーザーインタフェースから無効化された機能は、RACADM CLI コマンドを使用しても 有効化できない場合があります。

LDAP 経由の Active Directory ユーザーとしてホスト OS から iDRAC ページにアクセスできません。ホスト OS から iDRAC ページにアクセスを試みていますが、サイトに到達で きないという内容のエラーが発生します。この問題を解決す るにはどうすればよいですか?

ホスト OS から iDRAC ページにアクセスしようすると、サイトに到達できないという内容のエラーが発生する場合があります。iDRAC ネットワークを LDAP ユーザーとしての認証用に設定してください。ローカルユーザーまたはゲストとしてログインすることもできます。

iDRAC の工場出荷時の設定へのリセット操作(racadm racresetcfg など)を実行すると、ホスト OS から iDRAC ペ ージにアクセスできなくなりました。この問題を解決するには どうすればよいですか?

OS から iDRAC へのパススルーチャネルを有効にしてください。出荷時モードではデフォルトで無効化されています。iDRAC で OS から iDRAC へのパスス ルーチャネルを有効にするには、コマンド racadm set idrac.os-bmc.adminstate 1 を使用します。

iSM を介して受信した iDRAC SNMP トラップのソース IP アドレスとして 169.254.0.2 が表示されています。この問題 を解決するにはどうすればよいですか?

Linux OS では、ホスト OS を通じて受信された iDRAC SNMP トラップでは、ホスト名またはソース IP アドレスが実際のホスト OS 名または IP アドレスの代わりに 169.254.0.2 として表示されます。 これは、 OS の決定によって、 トラップをユーザーにレンダリングする前にエントリに入力されます。

LOM へ OS から iDRAC へのパススルーを設定し、dcismsync を実行しようとすると、アップデート操作が失敗しま す。どのように対処したらよいですか?

OS から iDRAC へのパススルーは、USB NIC モードに対して設定する必要があります。これは、事前に iDRAC サービスモジュールのインストールとアップ デートのための前提条件です。

ホスト OS で Hyper-V が有効になっていると、iSM は iDRAC と通信できません。どうすればよいですか?

ネットワークアダプタ にあるリモート NDIS デバイスを有効にします。

Linux および VMware ESXi オペレーティングシステムでは、 RACADM および WSMAN コマンドを使用して、iSM の WMIInfo 機能を有効または無効にできます。これは、ホスト OS の iSM 設定に影響しますか?

Microsoft Windows オペレーティングシステムの場合に限り、iSM の WMIInfo 機能に影響があります。Microsoft Windows 以外のオペレーティングシ ステムの場合は、iDRAC インタフェースからこの機能を有効または無効にしても、ホスト OS 上の iSM 設定には影響がありません。

ホスト OS で USBNIC インタフェースの IP アドレスを削除 すると、iSM は iDRAC と通信できなくなります。

iSM バージョン 3.3 を起動すると、iSM はホスト OS の USBNIC インタフェースを 1 回だけ設定します。これ以降、ホスト OS の USBNIC インタフェース で、IP アドレスの削除、インタフェースリンクの停止、または IPV4/IPV6 アドレスの無効化を実行してこのインタフェースを停止した場合、iSM ではユーザー設定が保持され、インタフェース設定がオーバーライドされなくなります。iSM と iDRAC 間の通信を復元するには、ホスト OS で iSM サービスを再開し てください。

Microsoft Windows OS でバッチファイル ISM_WIN.BAT を使用し て iDRAC 公開論理パーティション SMINST から iSM をイ ンストールした後、「指定されたファイルが見つかりません」と いうコンソールメッセージが表示されます。

iSM が正常にインストールされると、論理パーティション SMINST はホスト OS からアンマウントされます。このメッセージは、BAT スクリプトが SMINST パ ーティション自体から呼び出された場合に表示されます。インストールは正常に完了します。ユーザーのアクションは必要ありません。

iSM の依存パッケージが Ubuntu OS に存在しない場合、 OS DUP を使用したインストールは、iSM をインストール + アンパックの状態でインストールします。次のコマンドを使用 して、この状態を確認できます。

#dpkg -s dcism

Package: dcism

Status: install ok unpacked

この問題を解決するには、コマンドapt-get install -fを実行します。これにより、依存パッケージがインストールされます。

iSM 3.4.0 を RedHat Enterprise Linux などの Linux オペ レーティング システムにインストールすると、OS ログに 「 $G_IS_SIMPLE_ACTION$ (simple)' failed: failed to rescan: Failed to parse /usr/share/applications/ iDRACGUILauncher.desktop file: cannot process file of type application/x-desktop」などのメッセージが表示さ れます。

これらのメッセージは、GNOME デスクトップマネージャーに関連したものです。このシナリオに対処するために、さまざまな OS グループで Bugzilla 項目が取り込まれます。例:https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1594177 ユーザーのアクションは必要ありません。

[メニュー] > [アクセサリー]から[*iDRAC GUI*の起動] のショートカットをクリックすると、RHEL 6.10 または RHEL 7.6 に空のターミナルが表示されます。

ターミナルでのテキストの可視性は、OS の GNOME バージョンによって異なります。代わりに、GUI 対応シェルからランチャーを実行する方法もあります。 例:sudo ユーザーとして「bash#> sh /opt/dell/srvadmin/iSM/bin/iDRACLauncher.sh」と入力します。

[OSからiDRACへのパススルー]がiDRACで無効になっている場合、RHEL 6.10や RHEL 7.6 などの Linux OS でiDRAC GUI を起動すると、ユーザ ーに表示されるのは空のターミナルです。[y]または [Y]を選択して Enter を押すと、ホスト OS での USBNIC インターフェイス設定の指定になります。

あるいは [OS から iDRAC へのパススルー]を iDRAC の USBNIC モードで有効にして、ホスト OS から iDRAC ランチャーを再実行することもできます。

Linux および Ubuntu インストーラパッケージ

対応 Linux および Ubuntu OS のインストーラパッケージは次の通りです。

表 12. Linux インストーラパッケージ

対応 Linux オペレーティングシステム	インストーラパッケージ
Red Hat Enterprise Linux 6	SYSMGMT\iSM\linux\RHEL6\x86_64\dcism-3.4.0- <bldno>.el6.x86_64.rpm</bldno>
Red Hat Enterprise Linux 7	SYSMGMT\iSM\linux\RHEL7\x86_64\dcism-3.4.0- <bldno>.el7.x86_64.rpm</bldno>
SUSE Linux Enterprise Server 15	SYSMGMT\iSM\linux\SLES15\x86_64\dcism-3.4.0- <bldno>.sles15.x86_64.rpm</bldno>
Ubuntu 18	SYSMGMT\iSM\linux\Ubuntu18\x86_64\dcism-3.4.0- <bldno>.ubuntu18.deb</bldno>

① メモ: リストから任意のインストーラパッケージを使用して、iDRAC サービスモジュールを CentOS にインストールできます。